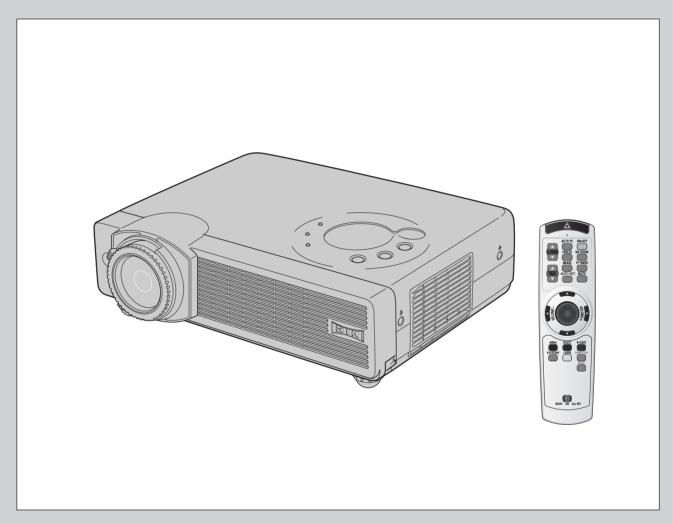
![EIKI]

液晶コンピュータ・ビデオプロジェクタ

LC-SB21D 型
取扱説明書

このたびはEIKI液晶コンピュータ・ビデオプロジェクタをお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。とくに4〜10ページの「安全上のご注意」は必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書といっしょに、いつでも取り出せるところに必ず保管してください。わからないことがあったときなどにお役に立ちます。

映機工業株式会社

LC-SB21D の特長

800 x 600 ドットの高解像度液晶パネル採用、SVGA画像をリアル表示、XGAを圧縮表示。（SXGAにも一部圧縮表示対応）

狭い場所でも大画面投映可能な短焦点レンズを搭載

小型・軽量・コンパクトデザイン

オートセットアップボタン
- ボタン１つでPC調整･キーストーン（上下）のセットアップができます。

プログレッシブ スキャン
- プログレッシブスキャンの採用により、映像をより高画質に投影します。

ランプの明るさを調整することができるランプモード

電力の節約を助ける、パワーマネージメントモード

快適なプレゼンテーションを支える豊富な機能
- コンピュータの信号の判別と最適設定を自動で行なう「マルチスキャン システム」と「オート PC アジャスト」機能。
- 見たい部分を瞬時に拡大または縮小して投影できる「デジタル ズーム」機能。（コンピュータ モード時）
- 投影画面の台形歪みをスクエアな画面に補正する「デジタル キーストーン (台形補正)」機能。
- 音声を一時的に消す「MUTE」機能・画面を一時的に消す「NO SHOW」機能・画面を一時的に静止させる「FREEZE」機能。
- プレゼンテーション時に便利な「P-TIMER (プレゼンテーション タイマー)」機能。
- 「アンプ・スピーカ」内蔵で音響施設のない出先等でもプレゼンテーションが可能。
- 「黒（緑）板」モードでスクリーンがなくても黒（緑）板に投影して通常のスクリーンに投影したときの色合いを再現。

暗証番号を登録してセキュリティー強化
- 「ロゴ暗証番号ロック」と「暗証番号ロック」機能で、第三者の不正使用や誤作動を防ぐことができます。

キャプチャー機能で好きな画像を取り込み、オリジナルの起動画面を作ることが可能。

DVI-I（デジタル ビジュアル インターフェイス）搭載
- デジタル ビジュアル インターフェイス（DVI-I） 入力端子により、コンピュータの画像をより鮮明に再現。
- HDCP技術を用いてコピープロテクトされたデジタル映像を再生、投影できます。

コンポーネント 映像入力端子を装備
- DVDやHDTVなどを高画質で再生。

入･出力切り替え可能D-sub端子を装備
- コンピュータ入力または、コンピュータ出力として切り換えて使用することができます。

天吊り、据置、リア投影など、さまざまな設置方法に対応

海外の映像システムにも対応する 6 カラーシステム
- NTSC、NTSC4.43、PAL、SECAM、PAL-M、PAL-N カラーシステムに対応。

高機能ワイヤレスリモコン付き
- プロジェクタおよび接続したコンピュータの両方の操作ができます。
- プレゼンテーション時に便利なレーザポインタ機能。
- レーザポインタをスポットライトやポインタ表示に切り替えることも可能。

別売のMulti Card Imager (マルチ･カード･イメージャー) を装着することによりプロジェクタをネットワーク経由で操作･管理することが可能。

～本説明書中の記号について～

記号	説明
（電球マーク）	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
☞	関連事項や､より詳しい説明を記載しているページを示しています。
[ボタン]名	リモコン､またはプロジェクタ本体の入出力端子や操作パネルのボタン名称を示しています。 例： [SELECT]ボタン､[COMPUTER IN 1 / DVI-I] 端子
「メニュー」名	メニューの項目を示しています。 例： 「インプット」､「キーストーン」

＊本説明書に記載されているイラストや図形の形状は実際のものとは異なります。

目 次

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

安全に関する重要な内容ですので、ご使用の前によくお読みの上、正しくお使いください。

■絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警 告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示の例

	注意（警告を含む）をうながす事項を示しています。 △の中に具体的な注意内容が描かれています。 たとえばこの絵表示は「感電注意」を意味します。
	してはいけない行為（禁止事項）を示しています。 ⦸の中や、近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
	しなければならない行為を示しています。 ●の中に具体的な指示内容が描かれています。 たとえばこの絵表示は「電源プラグをコンセントから抜け」を意味します。

⚠ 警 告

警　告

電源プラグを
コンセントから抜け

下記のような場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 煙が出ている
- 変なにおいや音がする
- 水など液体が本機の内部に入った
- 金属類や異物が本機の内部に入った
- 画面が映らない
- 音が出ない
- 大きな音が出てランプが消えた

このような異常状態や故障状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

警　告

電源プラグを
コンセントから抜け

万一、本機を倒したり、キャビネットを破損した場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

分解禁止

感電注意

本機のキャビネットは外さないでください。

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

禁　止

表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。

火災・感電の原因となります。

※１つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐタコ足配線もしないで下さい。

禁　止

水ぬれ禁止

本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠ 警 告

風呂、シャワー室では使用しないでください。

火災・感電の原因となります。

本機に水が入ったり、ぬらしたりしないでください。

火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

不安定な場所に置かないでください。

ぐらついた台の上や、傾いた所、高い棚の上など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

※「天吊り」設置をするときは、専用の金具が必要です。お買い上げの販売店にご相談下さい。

電源コードの取扱に注意してください。

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。またコードを釘などで固定しないでください。
  コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードを敷物で覆うと、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードが傷んだら、（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
  コードが破損して、火災・感電の原因となります。
- コンセント付き延長コードを使う場合は、つなぐ機器の消費電力の合計が延長コードの定格電力を超えない範囲でお使いください。超えて使用すると発熱し、火災の原因となります。
- 電源プラグとコンセントは定期的に点検し、プラグとコンセントの間にたまったホコリ·ごみ·汚れなどを取り除いてください。それらがたまって湿気を帯びると、火災の原因となります。（結露するところや水槽の近くには特にご注意を）

吸気口・排気口にご注意下さい。

- ご使用中は吸気口・排気口の中のファンが回転しています。これらの穴から物などを差し込まないでください。
- 本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
- 本機や付属の接続コードの接点部に金属類を差し込まないでください。事故や故障の原因となります。特にお子様にはご注意ください。

雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。

感電の原因となります。

⚠ 警 告

本機を改造しないでください。

火災・感電の原因となります。

アース線を接地してください。

本機は接地端子の付いた 3ピンの電源コードを使用しています。安全のため電源コードの接地端子を設置してください。（詳しくは、24ページをご覧ください。）

使用中はレンズをのぞかないでください。

強い光が出ていますので、目を傷めるおそれがあります。とくに小さなお子様にはご注意ください。吸気口や排気口ものぞかないでください。

レーザ光にご注意下さい。

リモコンのレーザポインタの発光部をのぞき込んだり、人に向けたりしないでください。目を傷める原因になります。また、リモコンを分解したり、お子様に使わせたりしないでください。

AVOID EXPOSURE-LASER
RADIATION IS EMITTED
FROM THIS APERTURE
レーザー光の出口
ビームをのぞき込まないこと

⚠ 注 意

電源コードの取扱いにご注意下さい。

- ● 電源コードを細かく折り曲げたり、巻いたり、束ねたまま使用しないでください。放熱しにくくなり、発熱やショートを起こし、火災・感電の原因となることがあります。
- ● 電源コードや接続ケーブルを床の上にはわせないでください。足を引っ掛けて転倒して、けがの原因となることがあります。

以下のような場所には置かないでください。

火災・感電の原因となることがあります。

- ● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
- ● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。

⚠ 注 意

ご使用のときは、ファンの吸気口および排気口をふさがないでください。

内部の温度上昇を防ぐため、冷却用のファンを内蔵しています。
吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 設置のときは、ファンの排気口を壁から1メートル以上あけてください。
- 空調設備の排気ダクト付近などに設置しないでください。
- 次のような使い方はしないでください。
  * 横倒しなど、指定以外の方向への設置。
  * 押し入れ、本箱など風通しの悪い狭いところに押し込む。
  * じゅうたんや布団の上に置く。
  * テーブルクロスなどを掛ける。
- また、壁など、周囲のものから 1メートル以上はなし、風通しをよくしてください。

キャスター付き台に本機を設置する場合には、キャスター止めをしてください。

動いたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

本機の上に重い物をのせたり、乗らないでください。

特に小さなお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけないでください。

コードの被ふくが溶けて火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、電源コードにご注意下さい。

電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなどを外したことを確認の上、移動してください。接続機器が落下や転倒して、けがの原因になることがあります。また、コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 注 意

電源プラグを
コンセントから抜け

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。

感電の原因となることがあります。

電源プラグを
コンセントから抜け

長期間、機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

火災の原因となることがあります。

注　意

長年のご使用で内部にほこりがたまると火災や故障の原因となることがあります。

掃除は梅雨の前が効果的です。費用などは販売店にご相談ください。

正しくお使いいただくために

持ち運び・輸送上のご注意

液晶プロジェクタは精密機器です。衝撃を与えたり、倒したりしないでください。故障の原因となります。
持ち運ぶときは、レンズの保護のためにレンズキャップをはめ、付属のキャリーバッグに納めて持ち運んでください。車両・航空機などを利用し持ち運んだり、輸送したりする場合は、輸送用の専用ケースをご使用ください。
別売の専用ケースについてはお買い上げの販売店にご相談ください。

● 付属キャリーバッグ使用上の注意 ●

付属のキャリーバッグは液晶プロジェクタを持ち運ぶとき、ホコリ等による汚れの防止と、キャビネット表面保護のためです。キャリーバッグは液晶プロジェクタを外部からの衝撃から保護する様に設計されていません。キャリーバッグに入れて持ち運ぶとき、衝撃を与えたり、落としたり、またはキャリーバッグに入れた液晶プロジェクタの上にものを置かないでください。破損の原因になります。液晶プロジェクタをキャリーバッグで輸送しないでください。破損の原因となります。（液晶プロジェクタを付属のキャリーバッグへ入れるときは、レンズが上にくるように入れてください。）

設置するときは次のことに注意してください

● 排気口の温風にご注意ください ●

注　意

排気口からは温風が吹き出します。温風の当たる所に次のものを置かないでください。
・スプレー缶を置かないでください。熱で缶内の圧力が上がり、爆発の原因となります。
・金属を置かないでください。高温になり、事故やけがの原因となります。
・観葉植物やペットを置かないでください。
・熱で変形したり、悪影響を受けるものを置かないでください。
・排気口付近には視聴席を設けないでください。

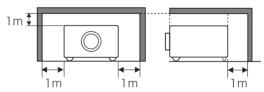
熱で変形や変色の恐れのあるものを上に置かないでください。また、動作中排気口周辺ならびに排気口上部のキャビネットが高温になります。特に小さいお子さまにはご注意ください。

● こんな場所には設置しないでください ●

湿気やホコリ、油煙やタバコの煙が多い場所には設置しないでください。レンズやミラーなどの光学部品に汚れが付着して、画質を損なう原因になります。また、高温、低温になる場所に設置しないでください。故障の原因になります。

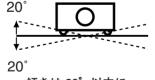
使用温度範囲	5℃～35℃	保管温度範囲	－10℃～60℃

● 壁などから上・左右・後方各１ｍ以上あけて設置してください ●

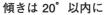
吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因や、プロジェクタの寿命を縮めたり、故障の原因となることがあります。押し入れ、本箱など風通しの悪い狭いところに押し込んだりしないで、風通しのよい場所に設置してください。

● 結露にご注意 ●

低温の場所から高温の場所へ急に持ち込んだときや、部屋の温度を急に上げたとき、空気中の水分が本機のレンズやミラーに結露して、画像がぼやけることがあります。結露が消えて通常の画像が映るまでお待ちください。

正しい方向に設置してください

プロジェクタは正しい方向に設置してください。誤った方向に設置すると、故障や事故の原因となります。

左右への傾きは各20度以内としてください。

横に立てて設置して投影しないでください。

上向き禁止

上向きに設置して投影しないでください。

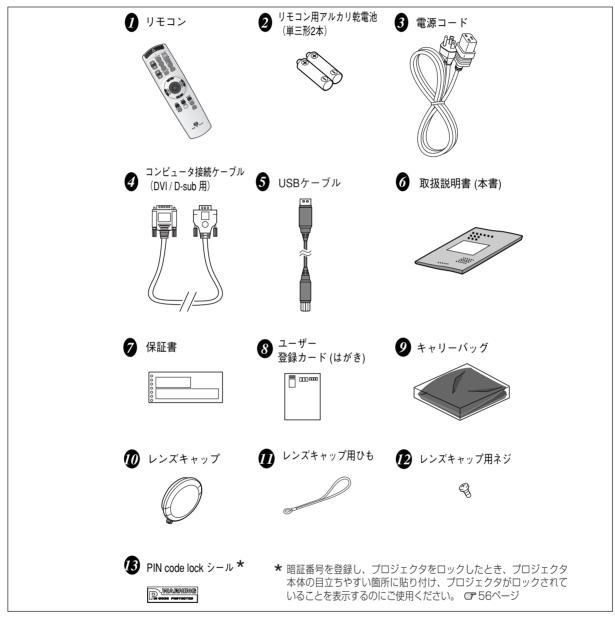
下向き禁止

下向きに設置して投影しないでください。

付属品を確認してください

プロジェクタ本体のほかに、以下の付属品がそろっているかお確かめください。

1. リモコン
2. リモコン用アルカリ乾電池（単三形2本）
3. 電源コード
4. コンピュータ接続ケーブル（DVI / D-sub 用）
5. USBケーブル
6. 取扱説明書 (本書)
7. 保証書
8. ユーザー登録カード (はがき)
9. キャリーバッグ
10. レンズキャップ
11. レンズキャップ用ひも
12. レンズキャップ用ネジ
13. PIN code lock シール *

* 暗証番号を登録し、プロジェクタをロックしたとき、プロジェクタ本体の目立ちやすい箇所に貼り付け、プロジェクタがロックされていることを表示するのにご使用ください。 ☞56ページ

＜レンズキャップを取り付ける＞

本機をお使いにならないときはホコリやキズからレンズを守るためレンズキャップをはめてください。

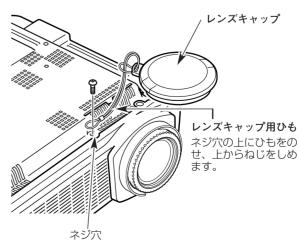
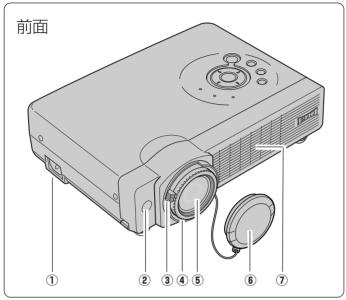
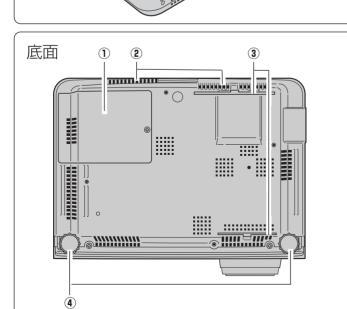
1 レンズキャップの穴にひもを通します。

2 本機の底面にある取付用ネジ穴にひもをのせ、ひもの上からネジをしめて、本機に取り付けます。

各部の名称

本体各部のなまえ

前面

ご使用中、天面は熱くなります。上に物を置いたりしないでください。変形や火災の原因となります。

① 電源コード接続ソケット
② リモコン受信部
③ ズームレバー
④ フォーカスリング
⑤ レンズ
⑥ レンズキャップ ＊ 1
⑦ 吸気口 ＊ 2

＊ 1

ランプ点灯中はレンズキャップをかならずはずしてください。レンズキャップをつけたまま点灯すると、レンズキャップの変形および火災の原因となります。

後面

① 排気口 ＊ 3
② 操作パネル・インジケータ
③ 吸気口 ＊ 2
④ 後面端子
⑤ スピーカ

底面

① ランプカバー
② 吸気口（後面と底面） ＊ 2
③ エアフィルター
④ 調整脚

＊ 2

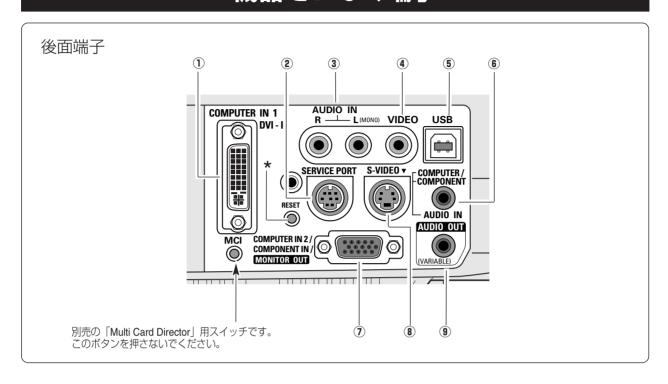
内部に冷却ファンがあります。ここをふさがないでください。

＊ 3

スプレーなど、引火性のもの、燃えやすいもの、熱で変形しやすい物を近くに置かないでください。火災や火事の原因となります。

機器をつなぐ端子

後面端子

別売の「Multi Card Director」用スイッチです。
このボタンを押さないでください。

① コンピュータ 1 DVI-I 入力端子 ☞21ページ
DVI規格対応の端子を持つコンピュータからの信号（デジタル/アナログ）を接続するDVI-I端子です。接続には別売のDVI-I用コンピュータ接続ケーブルを使用します。D-sub出力端子（アナログ）のコンピュータへの接続には、付属のコンピュータ接続ケーブル（DVI / D-sub 用）を使って接続します。また、この端子は別売の「Multi Card Director」の接続にも使用します。

② サービス用端子
サービスマン用の端子です。

③ 音声入力端子 ☞22ページ
④または⑧に接続された、ビデオ機器からの音声出力をこの端子に接続します。モノラルの音声は［L (MONO)］端子へ接続してください。

④ ビデオ入力端子 ☞22ページ
ビデオ機器からの出力をこの端子に接続します。

⑤ USB 端子 ☞21、57ページ
コンピュータのマウス操作をプロジェクタのリモコンで行なうときに、この端子とコンピュータのUSB端子を付属のUSBケーブルでつなぎます。

⑥ コンピュータ音声入力端子 / コンポーネント音声入力端子 ☞21、23ページ
① または ⑦ に接続された、コンピュータまたはビデオ機器からの音声出力（ステレオ）をこの端子に接続します。

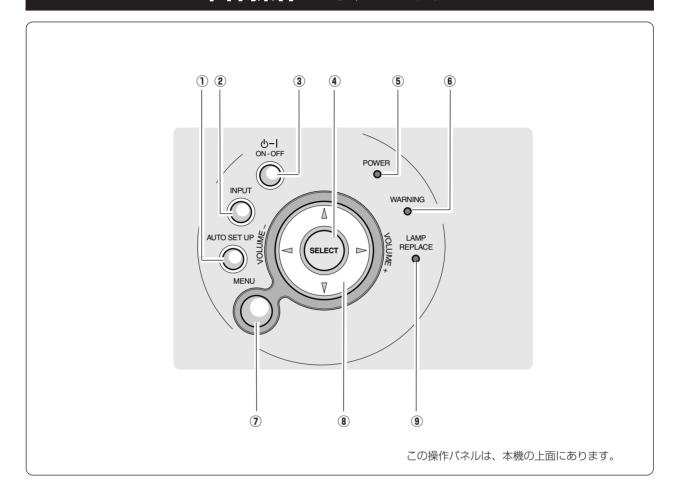
⑦ コンピュータ 2 / コンポーネント入力端子/ モニター出力端子 ☞21、23ページ
コンピュータからのアナログ信号またはビデオ機器からのコンポーネント信号を入力します。
また、コンピュータのモニター出力として切り換えて使用することができます。
接続には別売のD-sub用コンピュータ接続ケーブルまたはコンポーネント/D-sub接続ケーブルを使用します。
※ モニター出力として使用できるのは［COMPUTER IN 1/DVI-I］端子に接続された信号がアナログの時のみです。

⑧ S 映像入力端子 ☞22ページ
ビデオ機器からのS映像出力をこの端子に接続します。

⑨ 音声出力端子（可変） ☞21～23ページ
③ または ⑥ に接続された、投影中のコンピュータまたはビデオ画面の音声を外部のオーディオ機器へ出力する端子です。

* リセットボタン
本機の制御は内蔵のマイクロコンピュータによって行なわれていますが、まれにマイクロコンピュータの誤動作により、本機が正しく操作できないことがあります。そのような場合、リセットボタンを先の細い棒等で押して本機の再起動を行なってください。それ以外の場合は、リセットボタンを押さないでください。

本体操作パネルのボタン

この操作パネルは、本機の上面にあります。

① AUTO SET UP（オートセットアップ）ボタン ☞28、46ページ
PC調整、キーストーン（上下）を自動調整、自動補正します。

② INPUT（インプット）ボタン ☞33、41ページ
インプット（入力）を切り換えます。

③ ON–OFF（オン オフ）ボタン ☞25、26ページ
電源を入り・切りします。

④ SELECT（セレクト）ボタン ☞31ページ
ポインタの指す項目を選択します。

⑤ POWER（パワー）インジケータ ☞64ページ
プロジェクタの状態を示します。

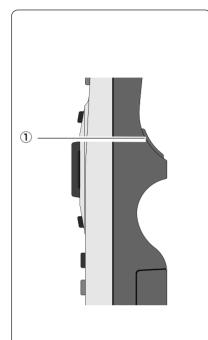
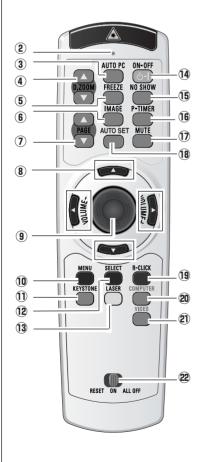
点灯（赤）：電源を入れる準備ができました。
点滅（赤）：電源を入れる準備ができるまで、またはランプの冷却中です。
点灯（緑）：プロジェクタは動作中です。
点滅（緑）：パワーマネージメントモードがはたらいています。

⑥ WARNING（ワーニング）インジケータ ☞64ページ
赤く点滅して、内部の温度が異常に高くなっていることを知らせます。また、プロジェクタの内部の異常を検知したとき赤く点灯します。

⑦ MENU（メニュー）ボタン ☞32ページ
メニューバーを出します。

⑧ ポイント（VOLUME（ボリューム））ボタン ☞30、31ページ
オンスクリーンメニューのポインタの移動や音量の調節に使用します。

⑨ LAMP REPLACE（ランプリプレイス）インジケータ ☞64ページ
ランプの交換時期を知らせます。

リモコンのボタン ①

① **左クリックボタン** ☞57ページ
コンピュータマウスの左クリックのはたらきをします。

② **レーザポインタインジケータ**
レーザポインタ (レーザ光) が出ているとき、またはプロジェクタへ信号を送信しているときに赤く点灯します。

③ **AUTO PC ボタン**（オートピーシー） ☞35ページ
トラッキング・総ドット数・画面位置を自動調整します。

④ **D.ZOOM ボタン**（デジタルズーム） ☞40ページ
デジタルズームの操作をします。

⑤ **FREEZE ボタン**（フリーズ） ☞29ページ
画面を一時的に静止させます。

⑥ **IMAGE ボタン**（イメージ） ☞38、43ページ
イメージモードを選択します。

⑦ **PAGE ボタン**（ページ）
リモコンをコンピュータのマウスとして使用するとき、ページを送るはたらきをします。▲で前のページへ、▼で次のページへ送ります。

⑧ **POINT ボタン**（ポイント） ☞30、31ページ
オンスクリーンメニューのポインタの移動やメニューの調整、音量の調整に使用します。

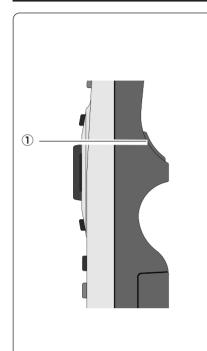
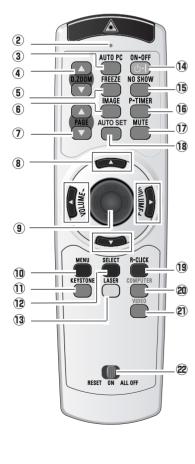
⑨ **プレゼンテーション/ポインタ/マウス操作用ボタン** ☞57、58ページ
スポットライト・ポインタ機能または、コンピュータのマウスとして使用します。

⑩ **MENU ボタン**（メニュー） ☞32ページ
メニューバーを出します。

⑪ **KEYSTONE**（キーストーン） ☞27ページ
画面の台形ひずみ (あおり) を補正します。

⑫ **SELECT ボタン**（セレクト） ☞31ページ
ポインタの指す項目を選択します。また、デジタルズームモードで画像を拡大または縮小するのに使用します。

⑬ **LASER ボタン**（レーザ） ☞58ページ
レーザポインタ (レーザ光) を出します。また、ポインタ機能のオン・オフの切換スイッチとしても使います。

リモコンのボタン ②

⑭ **ON–OFF ボタン** ☞25、26ページ
電源を入り・切りします。

⑮ **NO SHOW ボタン** ☞29ページ
画面を一時的に消します。

⑯ **P-TIMER ボタン** ☞29ページ
プレゼンテーション (ボタンを押してからの) 経過時間を表示させます。

⑰ **MUTE ボタン** ☞30ページ
音声を一時的に消します。

⑱ **AUTO SET ボタン** ☞28、46ページ
PC調整、キーストーン（上下）を自動調整、自動補正します。

⑲ **右クリックボタン** ☞57ページ
コンピュータマウスの右クリックのはたらきをします。

⑳ **COMPUTER ボタン** ☞33ページ
入力を「コンピュータ 1」または「2」に切り換えます。

㉑ **VIDEO ボタン** ☞41ページ
入力をビデオに切り換えます。

㉒ **RESET/ON/ALL-OFF スイッチ**
リモコンを長時間使用しないときは、「ALL OFF」側にしてください。
リモコンコードを初期設定に戻すときは、「RESET」側に切り換えます。

電池の入れかた

1 電池カバーを開けます。

押しながら
下にスライド
させます。

2 電池を入れます。

付属の乾電池を
＋プラス、－マイナスに
注意して入れます。

使用乾電池
単3形アルカリ乾電池2本

3 電池カバーを閉めます。

上にスライド
させます。

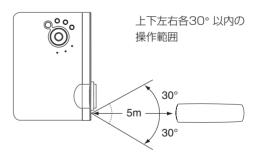
電池を使用するときのご注意

電池の破裂や液もれを防ぐために、次のことにじゅうぶんご注意ください。
・種類のちがうものや新・旧を混ぜて使わない。
・乾電池は充電しない。分解しない。
・＋極と－極の向きを正しく入れる。＋極と－極をショートさせない。
・可燃ごみに混ぜたり、燃やしたりしない。
・電池を廃棄するときは、各自治体の指示および電池製造者の指示に従って廃棄する。
また、正しくお使いいただくために次のことをお守りください。
・長い間使わないときは乾電池をとりだす。
・液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふきとってから新しい乾電池を入れる。

リモコンで操作できる範囲

リモコンで離れて操作できる範囲は、本体前面のリモコン受信部から約5m以内、上下左右30度以内です。
※間に障害物があると操作の妨げになります。

リモコンを使用するときのご注意

・ 本体のリモコン受信部に、直射日光や照明器具の強い光が当らないようにする。
・ 液状のものをかけない。
・ 落としたり衝撃を与えない。
・ 熱や湿気をさける。

リモコンコードの設定

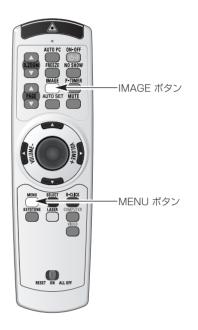
本機は8種類のリモコンコード（「コード１」〜「コード８」）の設定が可能です。複数のプロジェクタを使用するときにリモコンコードを使い分けて使用することができます。リモコンコードを他のコード（「コード２」〜「コード８」）に変更する場合、プロジェクタ本体とリモコンの両方をあわせて切り換える必要があります。
プロジェクタのリモコンコードを切り換えるにはセッティングメニュー内で行ないます。 ☞52ページ

1 ［MENU］ボタンを押します。

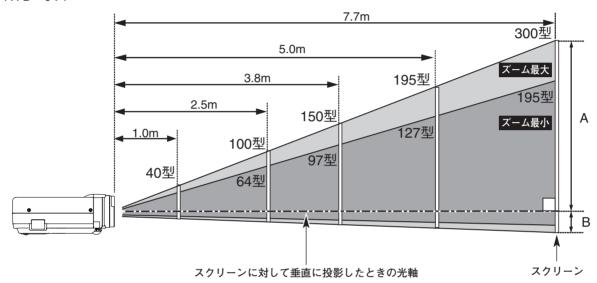
2 ［MENU］ボタンを押したまま、［IMAGE］ボタンを押します。［IMAGE］ボタンを押す回数でコードが決まります。

※［MENU］ボタンを押すのをやめたとき、コードが切り替わります。

リモコンコード	イメージボタンを押す回数
コード１	**1**
コード２	**2**
コード３	**3**
コード４	**4**
コード５	**5**
コード６	**6**
コード７	**7**
コード８	**8**

※ 設定したリモコンコードを初期化したいときはリモコン下方にあるスイッチで［RESET］を選択し、その後［ON］に戻します。
工場出荷時は「コード 1」に設定されています。

設置のしかた

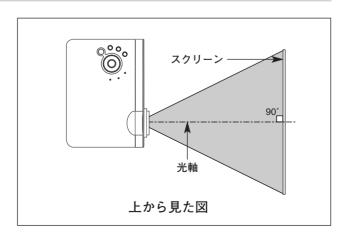
スクリーンからのおよその距離と画面サイズの関係

画面サイズは、プロジェクタのレンズからスクリーンまでの距離によって決まります。スクリーンからレンズまでの距離が約1.0m〜7.7mの範囲に設置してください。

画面サイズ (幅 x 高さ : mm)	40 型	100 型	150 型	195 型	300 型
	813 x 610	2032 x 1524	3048 x 2286	3962 x 2972	6096 x 4572
投影距離 (ズーム最小)	1.5 m	3.9 m	5.9 m	7.7 m	――
投影距離 (ズーム最大)	1.0 m	2.5 m	3.8 m	5.0 m	7.7 m

※上表は 4：3 の画面サイズで、投影画像の内容により画面サイズが異なる場合があります。 ☞40、45ページ

スクリーンに対して直角に設置する

投影したとき光軸がスクリーンに対して直角になるように設置してください。

上から見た図

投影画面の高さと傾きを調整する

1 本体前方を持ち上げてから両側の調整脚ロックを指で引き上げて調整脚を伸ばし、指を離して調整脚をロックします。

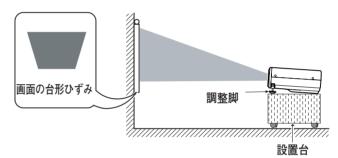
2 本体前方の2つの調整脚をまわして投影画面の高さと傾きを微調整します。最大約11.8度まで上がります。

 左右方向の傾きは±20度以内に

左右の傾きが±20度以内になるように投影してください。傾きが大きいと、ランプの故障の原因となります。

画面の台形ひずみ（あおり）

調整脚を上げすぎると、投影角度がスクリーンに対して斜めになり、画面が台形にひずみます。ひずみが大きい場合は、本体の設置台の高さなどを調整してください。

※ 画面の台形ひずみは、キーストーン調整でも補正できます。 ☞27、47ページ

※ 画面のひずみが大きいときは、設置台を高くして調整してください。

メモ

 お使いになる部屋の明るさについて

スクリーンは、太陽光線や照明が直接当たらないように設置してください。スクリーンに光が当たると、白っぽく見にくい画面になります。明るい部屋では、部屋の明るさをやや落としてください。

 ご注意・著作権について

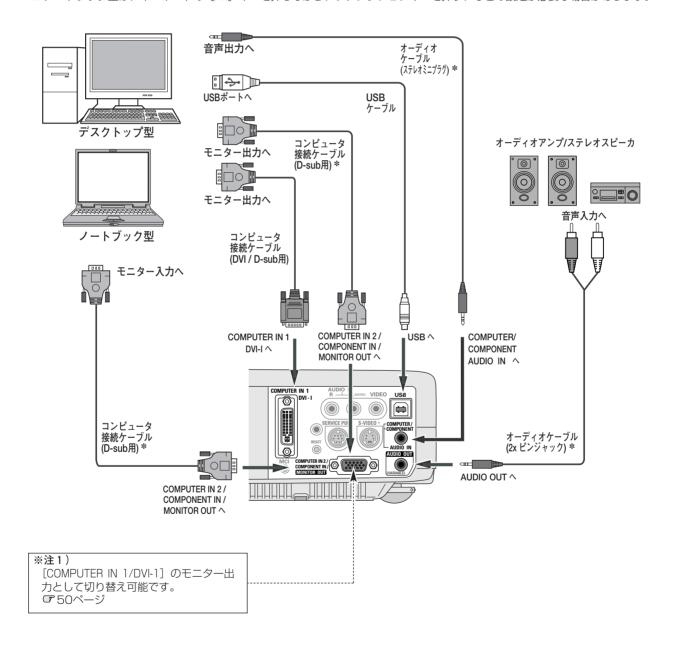
この液晶プロジェクタを営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において画面サイズ切換え機能等を利用して画面の圧縮、引き伸ばし等を行いますと、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

接続の例～コンピュータ

接続に使用するケーブル（＊ = 市販のケーブルをお使いください。）

- コンピュータ接続ケーブル
  （DVI/D-sub用、D-sub用＊）
- USBケーブル
- オーディオ ケーブル
  （ステレオミニプラグ＊、または 2xピンジャック＊）

コンピュータの映像を外部出力にする設定は、ケーブルをつないだ後に行なってください。設定方法はコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

※ ノートブック型は、キーボードの［Fn］キーを押しながら、ファンクションキーを押す、などの設定が必要な場合があります。

デスクトップ型
ノートブック型
音声出力へ
オーディオ
ケーブル
(ステレオミニプラグ) ＊
USBポートへ
USB
ケーブル
モニター出力へ
コンピュータ
接続ケーブル
(D-sub用) ＊
モニター出力へ
コンピュータ
接続ケーブル
(DVI / D-sub用)
モニター入力へ
オーディオアンプ/ステレオスピーカ
音声入力へ
COMPUTER IN 1
DVI-I へ
COMPUTER IN 2 /
COMPONENT IN /
MONITOR OUT へ
USB へ
COMPUTER/
COMPONENT
AUDIO IN へ
コンピュータ
接続ケーブル
(D-sub用) ＊
オーディオケーブル
(2x ピンジャック) ＊
AUDIO OUT へ
COMPUTER IN 2 /
COMPONENT IN /
MONITOR OUT へ

※注１）
［COMPUTER IN 1/DVI-1］のモニター出力として切り替え可能です。
☞50ページ

※注）
内蔵スピーカからは、接続した機器の音声信号が出力されますが、［AUDIO OUT］にプラグがささっていると、内蔵スピーカから音は出ません。プロジェクタ本体から音を出したいときは、［AUDIO OUT］にプラグがささっていないか、確認してください。

接続するときのご注意:
接続するときは、プロジェクタと外部機器の両方の電源を切ってから行なってください。

接続の例～ビデオ機器 ①

接続に使用するケーブル

※本機にはビデオ機器と接続するケーブルは付属されていません。市販のケーブルをお使いください。

• ビデオ ケーブル（3xピンジャック）
• Sビデオ ケーブル（ミニDIN 4ピン）
• オーディオ ケーブル
（ステレオミニプラグ、または2xピンジャック）

ビデオ
S-ビデオ

ビデオディスク
プレーヤ

S映像出力へ
音声出力へ
コンポジット
映像出力へ

オーディオアンプ/ステレオスピーカ

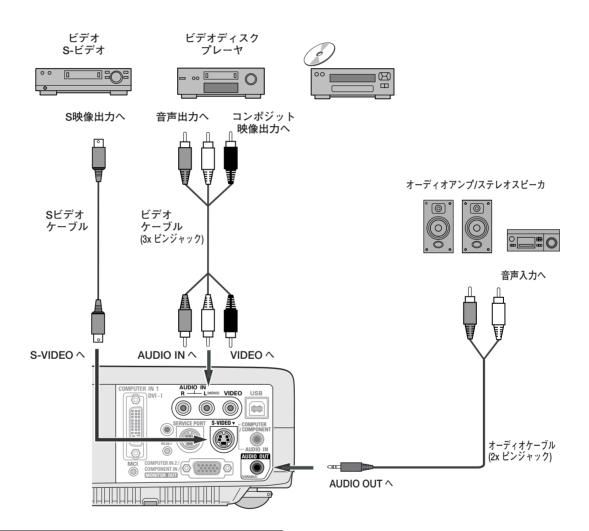
Sビデオ
ケーブル

ビデオ
ケーブル
(3x ピンジャック)

音声入力へ

S-VIDEO へ
AUDIO IN へ
VIDEO へ

オーディオケーブル
(2x ピンジャック)

AUDIO OUT へ

※2台のビデオ機器を接続しているときは、インプットメニュー内の信号選択メニューで「Auto」に設定していても、プロジェクタは入力端子へのプラグの挿入（信号の有無ではない）を検知して、1）S-Video、2）Video の順位で入力端子を自動選択します。接続されている入力端子が選択されないときは、インプットメニュー内の信号選択メニューでポインタを合わせ、［SELECT］ボタンで選択してください。 ☞41ページ

※注）
内蔵スピーカからは、接続した機器の音声信号が出力されますが、［AUDIO OUT］にプラグがささっていると、内蔵スピーカから音は出ません。プロジェクタ本体から音を出したいときは、［AUDIO OUT］にプラグがささっていないか、確認してください。

接続するときのご注意:
接続するときは、プロジェクタと外部機器の両方の電源を切ってから行なってください。

接続の例～ビデオ機器 ②

接続に使用するケーブル

※ 本機にはビデオ機器と接続するケーブルは付属されていません。市販のケーブルをお使いください。
✻ =は別売品があります。

- ビデオ ケーブル
  （D-sub/Scart、D-sub/コンポーネント ✻）
- オーディオ ケーブル
  （ステレオミニプラグ、または2xピンジャック）

ビデオ
ビデオディスク
プレーヤ
コンポーネント映像出力
機器（DVDプレーヤや
ハイビジョン受信機等）

RGB Scart
21-pin 出力へ
コンポーネント映像出力
へ
音声出力へ

オーディオアンプ/ステレオスピーカ

ビデオケーブル
（D-sub / Scart）
ビデオケーブル
（D-sub /
コンポーネント ）✻
オーディオ
ケーブル
（ステレオミニプラグ）

音声入力へ

COMPUTER IN 2/
COMPONENT IN/
MONITOR OUT へ
COMPUTER IN 2/
COMPONENT IN/
MONITOR OUT へ
COMPUTER/ COMPONENT
AUDIO IN へ

COMPUTER IN 1
DVI - I
AUDIO
R
L
(MONO)
VIDEO
USB
SERVICE PORT
S-VIDEO
RESET
COMPUTER
/ COMPONENT
AUDIO IN
AUDIO OUT
(VARIABLE)
COMPUTER IN 2 /
COMPONENT IN /
MONITOR OUT

オーディオ
ケーブル
（2x ピンジャック）

AUDIO OUT へ

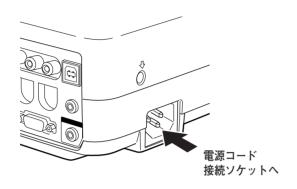
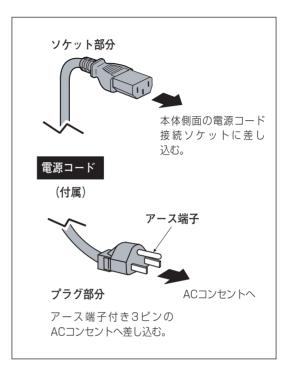
✻ 別売のコンポーネントケーブルの3ピン部分の形状はメスになっています。ビデオ機器とつなぐときは市販のオスの形状のケーブルが必要になります。

※注）
内蔵スピーカからは、接続した機器の音声信号が出力されますが、［AUDIO OUT］にプラグがささっていると、内蔵スピーカから音は出ません。プロジェクタ本体から音を出したいときは、［AUDIO OUT］にプラグがささっていないか、確認してください。

接続するときのご注意:
接続するときは、プロジェクタと外部機器の両方の電源を切ってから行なってください。

電源コードを接続する

電源コードをつなぐ前に、13、21～23ページを参照してコンピュータやビデオ機器を接続してください。

1 電源コードのソケット部分を本体側面の電源コード接続ソケットに差し込みます。

2 電源コードのプラグ部分をアース端子付き3ピンのACコンセントに差し込みます。

アース端子を接地してください

機器を安全にご使用いただくために、電源プラグのアース端子の接地を行なってください。また、アース端子の接地はコンピュータ使用時の電波障害の防止にもなっています。接地しないと、テレビやラジオに受信障害をおよぼす原因となることがあります。

ご使用にならないときは電源コードを抜いてください

本機は、操作パネルやリモコンの［ON-OFF］ボタンで電源を切っても、約11Wの電力が消費されています。安全と節電のため、長期間ご使用にならないときは電源プラグをACコンセントから抜いてください。

注　意

電源を入れる

電源コードをつなぐ前に、13、21～23ページを参照してコンピュータやビデオ機器を接続してください。

1 電源コードを ACコンセントに接続します。☞24ページ
［POWER］インジケータが赤色に点滅し、その後点灯にかわります。

2 リモコンまたは操作パネルの［ON-OFF］ボタンを押して電源を入れます。
［POWER］インジケータが赤から緑の点灯にかわります。
約20秒間のオープニング画面とそのカウントダウンが終わると画像が映せます。
スタート時、「ランプモード」（☞51ページ）と「インプットモード」の表示が約4秒間出ます。
このとき、セッティングメニュー内の「暗証番号ロック」を「オン」にしているときは、下記のように、暗証番号を入力します。
※ セッティングメニューで、
・「オンスクリーン表示 オン」（☞47ページ）、「ロゴ オフ」（☞49ページ）に設定しているときは、カウントダウンは表示されますがオープニング画面は出ません。
・「オンスクリーン表示 オフ」（☞47ページ）に設定しているときは、「ロゴ オン・オフ」（☞49ページ）どちらのときでもランプ点灯後すぐに投影されます。

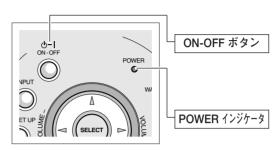
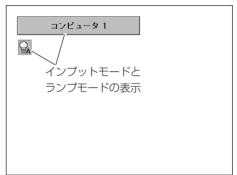
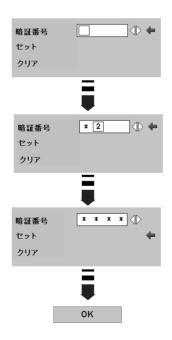
暗証番号の入力

①「暗証番号ロック」が「オン」のとき、上記「*2*」でカウントダウンが終わったあと、暗証番号を入れる画像があらわれます。

②［ポイント］ボタンの左右で0～9の数字を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、数字の表示が「＊」に変わります。これで1けた目が決定されました。この操作を繰り返し、「＊」が4つ並んでいれば、4けた全ての数字が決定しています。もう一度［SELECT］ボタンを押します。

③ 正しく入力されていると、「OK」と書かれた画面が表示され、投影が始まります。
※ 正しい暗証番号が入力されないと、約3分後に電源が切れます。

「暗証番号ロック」とは？

管理者以外の暗証番号を知らない第三者によるプロジェクタの操作を防止します。
詳しくは53ページの「セッティング」内の「暗証番号ロック」を参照ください。

電源を切った後、約90秒間*は電源が入りません

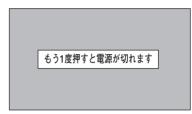
電源を切った後、約90秒間*は、次の点灯に備え、高温になったランプを冷却しています。この間は［POWER］ボタンを押しても電源は入りません。またこの間は電源コードを抜かないでください。
90秒*経ち、［POWER］インジケータが赤く点灯すれば電源を入れることができます。
*「ファン」モードを「L2」に設定しているときは約120秒間かかります。 ☞54ページ

ご使用にならないときは電源コードを抜いてください

操作パネルやリモコンの［POWER］ボタンで電源を切っても、約11Wの電力が消費されています。安全と節電のため、長期間ご使用にならないときは電源プラグをACコンセントから抜いてください。

電源を切る

1 リモコンまたは操作パネルの［ON-OFF］ボタンを押すと、画面に「もう1度押すと電源が切れます」の表示が出ます。

2 表示が出ている間に再度［ON-OFF］ボタンを押すと画面と音が消え、電源が切れます。
電源が切れると［POWER］インジケータが緑色から赤の点滅にかわり、ランプの冷却を始めます。

※ 表示は約4秒間出ます。

電源を切った後、約90秒間*は電源が入りません

電源を切った後、約90秒間*は、次の点灯に備え、高温になったランプを冷却しています。この間は［ON-OFF］ボタンを押しても電源は入りません。またこの間は電源コードを抜かないでください。約90秒*経ち、［POWER］インジケータが赤く点灯すれば電源を入れることができます。

*「ファン」モードを「L2」に設定しているときは約120秒間かかります。 ☞54ページ

投影中 → 冷却中（約90秒間*） → 電源を入れられます

電源を切る 点滅　　冷却完了 点灯

ランプを長持ちさせるために

ランプが発光を始め、安定しない状態のまま電源を切ると、ランプの寿命を縮める原因になります。約5分以上点灯させてから電源を切ってください。電源プラグを抜くときは、［ON-OFF］ボタンで電源を切り、約90秒経過後、［POWER］インジケータが赤く点灯してから行なってください。電源が入った状態からいきなり電源プラグを抜くと、ランプや回路に悪影響を与えます。

冷却ファンについて

電源が入っている間、温度によりファンの回転速度が自動的に切り換わりますが、故障ではありません。また、ファンの回転速度は調節することができます。 ☞54ページ

プロジェクタを24時間以上連続して使用しないでください。連続して使用する場合24時間に一度電源を切り、1時間休ませてください。
続けて使用すると、ランプの寿命を縮める原因となります。

パワーマネージメント機能とそのはたらき

本機にはパワーマネージメント機能が搭載されています。30秒以上信号が入力されず、またプロジェクタも操作されなかった場合、画面に「入力信号なし」とタイマー表示が現れ、カウントダウンを始めます。信号が入力されず、また操作されずカウントダウンが完了すると、ランプが消灯し、電力の節約とランプ寿命を助ける働きをします。
工場出荷時は「待機・5分」に設定されています。 ☞51ページ

ランプ消灯までの時間

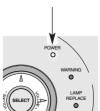
パワーマネージメントの動作について

設定が「待機」のとき

1）タイマーのカウントダウンが完了するとランプが消灯し、ランプ冷却動作にはいります。ランプ冷却中は［POWER］インジケータが赤く点滅し、プロジェクタの操作はできません。
2）ランプの冷却が完了すると［POWER］インジケータが緑色の点滅を始め、パワーマネージメントモードになっていることを知らせます。この状態のときに、信号が入力されたりプロジェクタが操作されるとランプが点灯し、画像が投影されます。

設定が「シャットダウン」のとき

1）タイマーのカウントダウンが完了するとランプが消灯し、ランプ冷却動作にはいります。ランプ冷却中は［POWER］インジケータが赤く点滅し、プロジェクタの操作はできません。
2）ランプの冷却が完了すると、電源が切れます。

パワーマネージメントモードになると、［POWER］インジケータが点滅を始めます。

投影画面を調整する

キーストーン調整で画面の台形ひずみを補正する(KEYSTONE)

リモコンまたは操作パネルで操作するとき

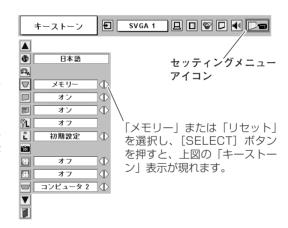
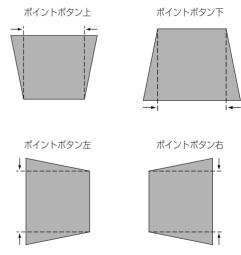
リモコンの［KEYSTONE］ボタンを押します。「キーストーン」表示が現われます。表示が出ている間に［ポイント］ボタンの上下左右で画面の台形ひずみを補正します。

※「キーストーン」表示が現れているあいだに、もう一度［KEYSTONE］ボタンを押すと、補正前の状態に戻ります。
※ 操作パネルには［KEYSTONE］ボタンはありません。

キーストーン
※ 表示は約10秒間出ます。
※「オンスクリーン表示」を「オフ」に設定しているときは画面表示は出ません。
※ 補正された方向の矢印は赤く表示されます。（無補正の場合の表示は白色です。）
※ 最大の補正位置で矢印の表示が消えます。

オンスクリーンメニューで操作するとき

☞47ページ

1. ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをセッティングメニューのアイコンに合わせます。
2. ［ポイント］ボタン下でポインタをキーストーンのアイコンに合わせ、［SELECT］ボタンで選択します。［ポイント］ボタンの左右で「メモリー」または「リセット」を選択します。もう一度［SELECT］ボタンを押すと、キーストーン調整モードに入ります。画面に「キーストーン」表示が現われます。
3. 表示が出ている間に［ポイント］ボタンの上下左右で画面の台形ひずみを補正します。

※ キーストーン調整で補正した画面は信号をデジタル圧縮して映しますので、線や文字がオリジナルの画像と多少異なる場合があります。

オートセットアップ

「PC調整*1」・「キーストーン（上下）*2」をボタン１つで自動的に調整します。

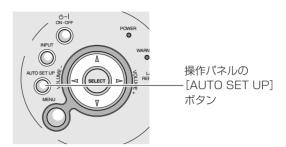
リモコンの［AUTO SET］ボタンまたは操作パネルの［AUTO SET UP］ボタンを押します。

※ 調整が完了すると、調整された適正な画面で、投影されます。

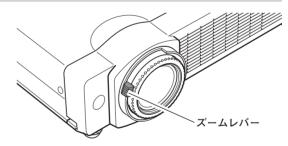
※「オートキーストーン（上下)」は、プロジェクタが設置されたときの傾斜を読みとり、台形ひずみを補正します。設置の状況によっては台形ひずみを完全に補正できないこともあります。そのようなときや、左右のひずみも補正したいときには、リモコンの［KEY STONE］ボタン、または、セッティングメニュー内の「キーストーン」から、手動で補正を行なってください。

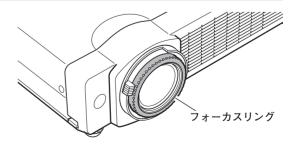
※ オートセットアップで自動調整する内容は、セッティングメニュー内の「オートセットアップ」で設定できます。☞46ページ

*1 PC調整は入力信号がPCの時だけはたらきます。「トラッキング」「総ドット数」「水平位置」「垂直位置」の4項目を自動調整します。

*2 セッティングメニューで「天吊り」機能が「オン」のときは「オートキーストーン」は選択できません。 ☞50ページ

※ ボタンを押すたびに調整を行ないます。

画面の大きさを決める（ZOOM）

［ズームレバー］を回して、画面の大きさを調整をします。

フォーカスを合わせる

［フォーカスリング］を回して、画像がもっとも鮮明に映るように焦点を合わせます。

画面を一時的に静止させる（FREEZE）

リモコンの［FREEZE］ボタンを押すと、再生機器に関係なく投影画面だけが静止します。

※ リモコンまたは操作パネルのどのボタンを押しても解除することができます。
※ ［FREEZE］ボタンは操作パネルにはありません。

 こんなときに便利です

プレゼンターがコンピュータで次の資料の準備をする間、視聴者には［FREEZE］ボタンで一時静止した画面を見てもらいます。準備中の無用な画像を隠して、スマートなプレゼンテーションが行なえます。

画面を一時的に消す (NO SHOW)

リモコンの［NO SHOW］ボタンを押すと、「ブランク」表示が出て再生機器に関係なく投影画面を一時的に消すことができます。

※ リモコンまたは操作パネルのどのボタンを押しても解除することができます。
※［NO SHOW］ボタンは操作パネルにはありません。

※表示は約4秒間出ます。

ロゴ画面を表示させることができます

［NO SHOW］ボタンを2回押します。
「セッティング」メニューの「キャプチャー」機能（☞50ページ）を使い、「ロゴ」機能（☞49ページ）で「ユーザー」を選択していると、設定したロゴ画面を表示させることができます。

 こんなときに便利です

プレゼンテーション中にプレゼンターの話に集中してほしいときや、視聴者に見せたくない画面があるときなどに便利です。

プレゼン時に経過時間を表示する (P-TIMER)

リモコンの［P-TIMER］ボタンを押すとボタンを押したときからの経過時間をカウントし、画面に表示します。
もう一度［P-TIMER］ボタンを押すと経過時間のカウントを止め、それまでの経過時間を画面に表示します。さらに［P-TIMER］ボタンを押すと解除されます。

※［P-TIMER］ボタンは操作パネルにはありません。

※00分00秒から最長59分59秒まで経過時間を画面表示できます。

 こんなときに便利です

プレゼンテーションの持ち時間が決められているときなど、プレゼンターは経過時間を考えながら、スムーズなプレゼンテーションを行なうことができます。

音量を調節する・一時的に消音する (MUTE)

ダイレクトボタンで音を調節する

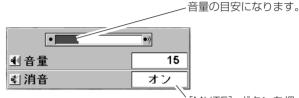
音　量

リモコンまたは操作パネルの［VOLUME］ボタン（+/–）で音量を調節します。音量バーを目安にして調節してください。

※ 表示は約4秒で消えます。
※「オンスクリーン表示」を「オフ」に設定しているときは画面表示は出ません。

消　音

リモコンの［MUTE］ボタンを押すと、一時的に音が消えます。もう一度［MUTE］ボタンを押すか、［VOLUME］ ボタン（+/–）を押すと解除されます。

※［MUTE］ボタンは操作パネルにはありません。

サウンドメニューで音を調節する

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをサウンドメニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン下でポインタをメニュー内に下ろしてお好みの項目にポインタを合わせ、［SELECT］ボタンで選択します。

サウンドメニュー

音　量

［ポイント］ボタン左で音量が小さくなり、［ポイント］ボタン右で音量が大きくなります。
音量のバーを目安に調節してください。

消　音

［ポイント］ボタン右または左で「オン」に切り換えると、一時的に音を消すことができます。「オフ」にすると再び音が出ます。

※「オン」を選択していても、「音量」の数値を変更すると、自動的に「オフ」になります。

オンスクリーンメニューの操作方法

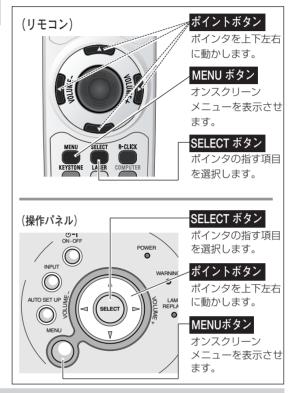
メニュー操作の基本を覚えてください

オンスクリーンメニュー(画面上のメニュー)の操作は、①ポインタを移動し、②ポインタの指す項目を選択するのが基本です。

①ポインタの動かし方

ポインタは、［ポイント］ボタンで上下左右に動かします。
［ポイント］ボタンはリモコンと操作パネルにあります。

②項目の選択のしかた

ポインタの指す項目やアイコンを選択するには、［SELECT］ボタンを押します。［SELECT］ボタンはリモコンと操作パネルにあります。

操作の手順

画面にメニューバーを表示させる

1 ［MENU］ボタンを押すと、画面上にメニューバーが表示されます。（☞32ページ）メニューバーには選択できるメニューがアイコン（操作をイメージした図）の形で一覧表示されます。
アイコンを囲んでいる赤い枠がポインタです。

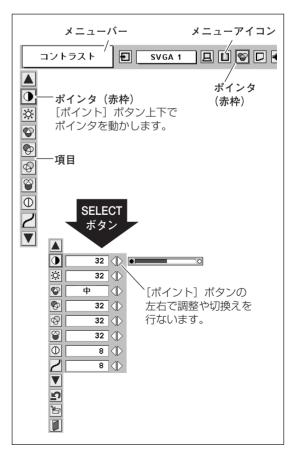
メニューを選択する

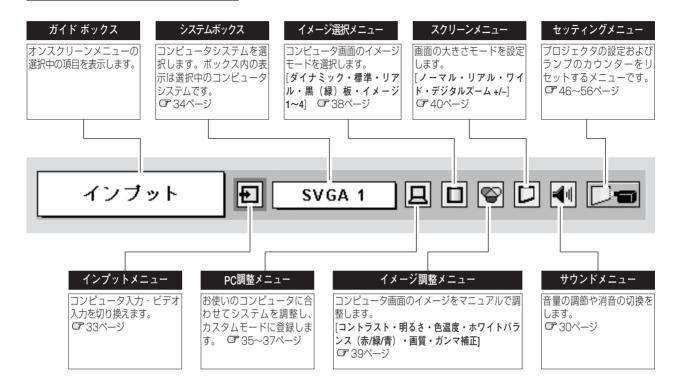
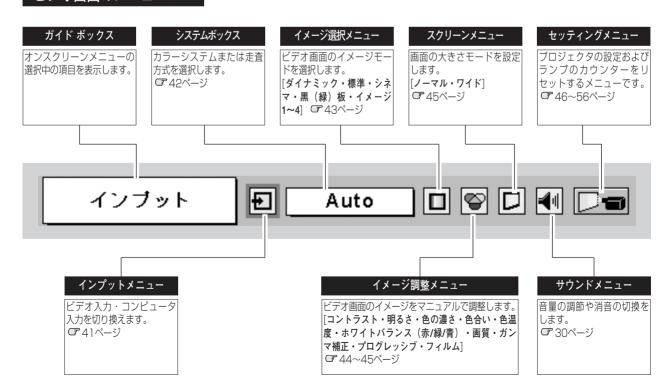
2 赤い枠のポインタを、［ポイント］ボタンの左右で選択したいメニューのアイコンに移動させます。

メニュー画面で調整や切り換えを行なう

3 ［ポイント］ボタン上下でポインタを調整する項目に合わせます。

4 ［SELECT］ボタンを押して、調整する項目の設定状態をメニュー画面に出します。

5 ［ポイント］ボタンの左右で、調整や切換えを行ないます。それぞれのメニューの調整については、各メニューの説明項目を参照してください。

メニューバー

コンピュータ画面のメニューバー

ビデオ画面のメニューバー

コンピュータ入力に切り換える

ダイレクトボタンで入力を切り換える

リモコンの［COMPUTER］ボタン、または操作パネルの［INPUT］ボタンを押して、「コンピュータ 1」または「コンピュータ 2」を選択します。

※［INPUT］ボタンを押すごとに切り換わります。

INPUT ボタン

コンピュータ 1 → コンピュータ 2 *1 → ビデオ

COMPUTER ボタン

コンピュータ 1 → コンピュータ 2 *1

※表示は約4秒間出ます。

※「オンスクリーン表示」を「オフ」に設定しているときは画面表示は出ません。

*1 セッティングメニューの中の端子の設定で「モニター出力」を選択している場合は、「コンピュータ 2」は表示されません。

インプットメニューで入力を切り換える

インプット メニュー

1. ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをインプットメニューのアイコンに合わせます。

2. 「コンピュータ 1」または「コンピュータ 2」に ポインタを合わせ、［SELECT］ボタンで選択します。

3. ポインタを入力信号の種類に合わせ、［SELECT］ボタンで選んで下さい。

ポインタを入力信号の種類へ合わせ、［SELECT］ボタンを押して選択します。

コンピュータ 1

［COMPUTER IN 1/ DVI-I］端子に接続されている入力信号に合わせ、［SELECT］ボタンで選択します。

※ HDCP技術でコピープロテクトされたハイビジョン信号を接続したときは「RGB（AV HDCP）」を選択します。

コンピュータ 2

「RGB」を選択します。

☞21ページ

※ 「Component」は、ビデオ機器からのコンポーネント信号を［COMPUTER IN 2 / COMPONENT IN / MONITOR OUT］に入力する場合に選択します。接続は、別売のD-sub/コンポーネント変換ケーブルを使用します。

※ 「RGB（Scart)」は、ビデオ機器からの信号（SCART 21ピン*2）が［COMPUTER IN 2］に入力されている場合に選択します。

※ セッティングメニューの中の端子の設定で「モニター出力」を選択している場合は、「コンピュータ 2」は表示されません。

*2 SCART 21ピン端子は、主にヨーロッパ地域で販売されているビデオ機器に備えられているビデオ出力端子で、この端子のRGB出力をプロジェクタで見るには、ビデオ機器のSCART 21ピン端子とプロジェクタの［COMPUTER IN 2 / COMPONENT IN / MONITOR OUT］を専用のケーブルで接続します。［COMPUTER IN 2 / COMPONENT IN / MONITOR OUT］で再生される RGB SCART 信号は、480i、575iのRGB信号のみです。コンポジットビデオ信号は再生されません。

コンピュータシステムの選択

システムモードが自動選択されます

（マルチ スキャン システム）

本機は接続されたコンピュータの信号を判別し、適合するシステム モード（VGA、SVGA、XGA、SXGA・・・）を自動で選択しますので、ほとんどの場合、特別な操作をせずにコンピュータ画面を投影することができます。 ☞67ページ
選択されたシステムモードは、メニューバーのシステムボックスに表示されます。

※ システムボックスには、下記のメッセージが表示されることがあります。

システムメニュー

システムボックスに表示されるメッセージ

Auto

接続されたコンピュータの信号に合ったシステムモードがプロジェクタに用意されていない場合、自動PC調整機能が働き、システムボックスに「Auto」の表示が出ます。画像が正しく投影されないときは、お使いのコンピュータに合わせてマニュアルで調整し、「カスタムモード」に登録してください。
☞35～37ページ

コンピュータの入力信号がありません。接続を確認してください。 ☞13、21～23ページ

D-VGA・D-SVGA・D-XGA・D-SXGA 2・D-SXGA 3

コンピュータの入力信号がデジタルの場合に表示されます。 ☞67ページ

システムモードをマニュアルで選択するとき

「カスタムモード※」を選択するときなどは、マニュアルでシステムモードを選択してください。

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをシステムボックスに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン下でポインタをメニュー内に下ろし、いずれかにポインタを合わせて［SELECT］ボタンで選んでください。

※ カスタムモード：お使いのコンピュータに合わせて、お客さまがマニュアルで登録したシステムモードです。 ☞36、37ページ

システムメニュー

システム　SVGA 1

モード 1
モード 2
SVGA 1
SVGA 2

システム ボックス
選択中のシステムモードを表示します。

PC調整メニューで登録した「カスタムモード1～5」を表示します。

選択できるシステムモードの一覧を表示します。

※入力信号がデジタルの時は、システムメニューは選択できません。

コンピュータシステムの調整

自動PC調整機能

調整頻度の高い「**トラッキング**」「**総ドット数**」「**水平位置**」「**垂直位置**」の4項目を自動調整することができます。

リモコンのダイレクトボタンで調整する

リモコンの［AUTO PC］ボタンを押します。

AUTO PC ボタン

メニューから調整する

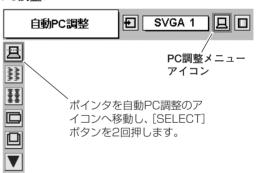
自動PC調整

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをPC調整メニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下でポインタを「自動PC調整」に合わせて［SELECT］ボタンを押すと、PC調整画面が出ます。［SELECT］ボタンをもう一度押して、自動調整を実行させます。

PC調整メニュー

PC調整メニューアイコン

ポインタを自動PC調整のアイコンへ移動し、［SELECT］ボタンを2回押します。

※自動PC調整機能で「トラッキング」「総ドット数」「水平位置」「垂直位置」のすべてを完全に調整できないコンピュータもあります。その場合は、マニュアルで調整し、「カスタムモード」に登録してください。
☞36、37ページ

※自動調整した内容を一度登録しておくと、前述のシステムメニューでそのモードを選択できます。登録のしかたについては、36ページの「マニュアルPC調整の手順3」をごらんください。

※以下のときは、自動PC調整機能ははたらきません。
- ・システムメニューで、480p、575p、720p、480i、575i、1035i、1080iを選択されているとき。
- ・入力信号がデジタルのとき。
- ・HDCP信号を受信しているとき。
- ・別売の『Multi Card Imager』のメモリーカードを装着し、選択・使用しているとき。

マニュアルPC調整（「カスタムモード」を登録する）

本機は、接続されたコンピュータの信号を判別し、適合するモードを自動選択しますが、コンピュータによっては自動選択できないものもあります。メニューバーの「システムボックス」に「Auto」と表示され、画像が正しく投影されないときは、PC調整メニューでマニュアル調整し、「カスタムモード」に登録してください。登録した「カスタムモード」は、システムメニューで選択できます。「カスタムモード」は5つまで登録することができます。

※コンピュータからの入力信号がデジタルの場合は、PC調整メニューは機能しません。

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをPC調整メニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下でポインタを調整したい項目のアイコンに合わせ、［SELECT］ボタンで選択します。
選んだ項目の調整画面が現われます。調整は画面を見ながら［ポイント］ボタンの左右で行ないます。

3 メモリー

ポインタをメモリーアイコンに合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、PC調整データ登録メニューが現われます。登録したいモード（「モード 1 から 5」までのいずれか）にポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。

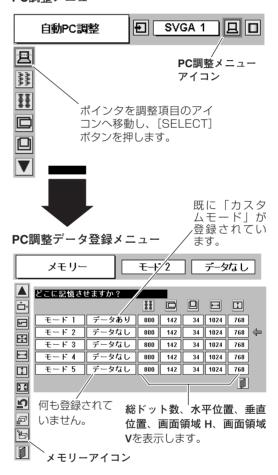
データ消去

ポインタを「データ消去」アイコンに合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、「PC調整データ消去」メニューが現われます。消去したいモードにポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。

リセット

調整した内容をキャンセルし、調整前の値を表示します。

メニューを終了します。

PC調整メニュー

PC調整データ消去メニュー

トラッキング

トラッキング（同期）がずれて画面のちらつきがあるときに調整します。（0から31まで）

※コンピュータによっては、画面のちらつきが完全に消えない場合があります。

総ドット数

1 水平期間の総ドット数を調整します。

水平位置

画面の水平方向の位置を調整します。

垂直位置

画面の垂直方向の位置を調整します。

コンピュータ情報

現在接続しているコンピュータの水平周波数と垂直周波数の値を表示します。

ポインタを合わせ、[SELECT] ボタンを押すと、現在接続中のコンピュータの信号を表示します。

クランプ

クランプ位置を調整します。

投影している映像に暗い線が出ているときに使います。

画面領域

あらかじめ近い解像度に調整するときに使います。

画面領域 H

水平解像度を調整します。［ポイント］ボタンの左右でコンピュータの水平解像度に合わせて調整してください。

※「画面領域 H」は、［ポイント］ボタンで調整後［SELECT］ボタンを押して調整値を決定する必要があります。

画面領域 V

垂直解像度を調整します。［ポイント］ボタンの左右でコンピュータの垂直解像度に合わせて調整してください。

※「画面領域 V」は、［ポイント］ボタンで調整後［SELECT］ボタンを押して調整値を決定する必要があります。

フルスクリーン

オン ・・・横4：縦3 のフルスクリーンサイズで投影します。

オフ ・・・オリジナルの画像の縦横比で投影します。

※システムメニューで480p、575p、720p、480i、575i、1035i、1080iのシステムモードが選択されているときは、「画面領域 H / V」「フルスクリーン」の調整はできません。

イメージの調整

IMAGEボタンでイメージモードを選択する

［IMAGE］ボタンを押すごとに、イメージモードが「ダイナミック」「標準」「リアル」「黒（緑）板」「イメージ 1」「イメージ 2」「イメージ 3」「イメージ 4」と切り換わります。

ダイナミック

「標準」よりもメリハリの効いた画質を再現することができます。

標　準

「コントラスト」「明るさ」「色温度」「ホワイトバランス（赤/緑/青）」「画質」「ガンマ補正」が、工場出荷時設定の標準値になります。

リアル

このモードは中間調が明るめに補正されるため、明るい場所での見栄えが改善されます。

黒（緑）板

教室などの緑色をした黒板に投影するとき、白いスクリーンに投影したときに近い色合いを再現します。

イメージ 1〜4

イメージ調整メニューでマニュアル調整した画質を呼び出します。
☞次ページ

［IMAGE］ボタンを押すごとに切り換わります。

※表示は約4秒間出ます。
※「オンスクリーン表示」を「オフ」に設定しているときは画面表示は出ません。

イメージ選択メニューでイメージモードを選択する

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをイメージ選択メニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下でポインタをお好みのイメージモードに合わせ、［SELECT］ボタンで決定します。

ダイナミック

「標準」よりもメリハリの効いた画質を再現することができます。

標　準

「コントラスト」「明るさ」「色温度」「ホワイトバランス（赤/緑/青）」「画質」「ガンマ補正」が、工場出荷時設定の標準値になります。

リアル

このモードは中間調が明るめに補正されるため、明るい場所での見栄えが改善されます。

黒（緑）板

教室などの緑色をした黒板に投影するとき、白いスクリーンに投影したときに近い色合いを再現します。

イメージ 1〜4

イメージ調整メニューでマニュアル調整した画質を呼び出します。
☞次ページ

イメージ選択メニュー

マニュアルでイメージ調整を行なう

手　順

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタを「イメージ調整」メニューに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下でポインタを調整したい項目に合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、その項目の調整画面が現われます。調整は画面を見ながら［ポイント］ボタンの左右で行ないます。

3 メモリー

ポインタを「メモリー」に合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、「イメージ調整データ登録」メニューが現われます。登録したいイメージモードにポインタを合わせ、［SELECT］ ボタンを押すと、「はい、いいえ」の登録確認メニューが表示されます。「はい」を選択し［SELECT］ ボタンを押すと登録されます。
「いいえ」を選択し［SELECT］ボタンを押すと「イメージ調整データ登録」メニューに戻ります。
※ 調整した項目は「メモリー」で登録しないと保存されません。

リセット

ポインタを「リセット」に合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、「はい、いいえ」の登録確認メニューが表示されます。「はい」を選択し［SELECT］ ボタンを押すと、調整した内容をキャンセルし、調整前の値を表示します。
「いいえ」を選択し［SELECT］ボタンを押すとキャンセルを中止することができます。

戻る

メニューを終了します。

項　目

コントラスト

［ポイント］ボタン左でコントラストが薄くなり、［ポイント］ボタン右でコントラストが濃くなります。（0 から 63 まで）

明るさ

［ポイント］ボタン左で映像が暗くなり、［ポイント］ボタン右で映像が明るくなります。（0 から 63 まで）

色温度

［ポイント］ボタンの左右でお好みの色温度（超低ー低ー中ー高）を選択します。
※ この項目を調整すると「ホワイトバランス」の調整値も変化します。
※「ホワイトバランス」（赤/緑/青のどれか1つでも）の調整をすると「調整中」と表示されます。

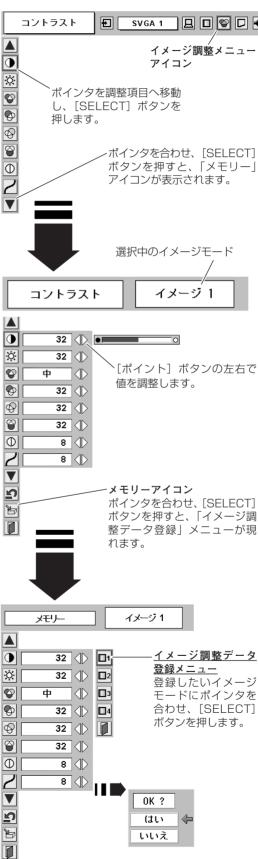
ホワイトバランス（赤/緑/青）

［ポイント］ボタン左で各色調は薄くなり、［ポイント］ボタン右で各色調は濃くなります。（各色 0 から 63 まで）

画　質

［ポイント］ボタン左で映像がやわらかくなり、［ポイント］ボタン右で映像がくっきりなります。（0 から 15 まで）

ガンマ補正

［ポイント］ボタンの左右で映像の白レベルから黒レベルまでのコントラストバランスを調整します。（0 から 15 まで）

画面サイズを調整する

お好みにより、画像サイズを変えることができます。

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをスクリーンメニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下で選択したい機能に合わせ、［SELECT］ボタンで決定します。

スクリーンメニュー

注）LC-SB21D : 800x600 ドット

ノーマル

画像を有効投影画面注）の高さに合わせて投影します。

リアル

画像をオリジナルサイズで投影します。画像サイズが有効投影画面注）よりも大きいときは、自動的に「デジタルズーム ＋」モードに入ります。

ワイド

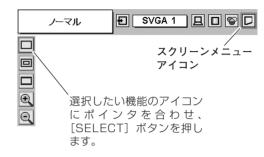
画像を有効投影画面注）の幅に合わせ、横16 ： 縦9のワイド画面で投影します。

デジタルズーム +

「デジタルズーム＋」を選択するとメニューバーが画面から消え、「D.Zoom ＋」表示が現われます。
［SELECT］ボタンを押すごとに画像が拡大します。
［ポイント］ボタンの上下左右で画像を移動させます。
画像の移動機能は、画像サイズが有効投影画面注）よりも大きいときのみはたらきます。
リモコンの［D.ZOOM ▲］ボタンを押しても画像の拡大ができます。

デジタルズーム ー

「デジタルズーム －」を選択するとメニューバーが画面から消え、「D.Zoom －」表示が現われます。
［SELECT］ボタンを押すごとに画像が縮小します。
リモコンの［D.ZOOM ▼］ボタンを押しても画像の縮小ができます。

※「デジタルズーム」モードから抜けるときは、［D.ZOOM、SELECT、ポイント］以外のボタンを押します。
※「ノーマル」モードへもどるときは、ポインタを「ノーマル」モードに合わせ［SELECT］ボタンを押します。
※ システムメニューで 720p 、1035i、1080iのシステムモードが選択されているときは、スクリーンメニューは機能しません。
※ システムメニューで 480i、575i、480p、575p のシステムモードが選択されているときは、「リアル」と「デジタルズーム +/－」は選択できません。
※ 本機はSXGA（1280×1024ドット）を超える解像度には対応しておりません。お使いのコンピュータの解像度がSXGA (1280×1024ドット) を超える場合は、プロジェクタに接続する前に低い解像度に再設定してください。
※ 有効投影画面注）以外の画像データは、初期画面で有効投影画面注）に合うように自動的に画像サイズが変換されます。
※ PC調整メニューでマニュアル調整した「カスタムモード」をコンピュータのシステムモードに使用しているときは、「デジタルズーム +」モードのときの画像の移動機能は正しくはたらかないことがあります。
※ 「オートセットアップ」機能（☞46ページ）がはたらいているときは、「デジタルズーム +/－」は解除されます。
※ システムモード（☞34ページ）で「VGA、SVGA、SXGA」が選択されていて、上部への「キーストーン」調整が最大値のとき、「デジタルズーム －」が正しくはたらかないときがあります。

VIDEO / S-VIDEO 入力に切り換える

ダイレクトボタンで入力を切り換える

リモコンの［VIDEO］ボタン、または操作パネルの［INPUT］ボタンを押して、「ビデオ」に切り換えます。

※ 正しい入力信号が選択されないときは、インプット メニューで正しい入力信号を選んでください。（下記参照）

※［INPUT］ボタンを押すごとに切り換わります。

INPUT ボタン

コンピュータ 1 → コンピュータ 2 * → ビデオ

VIDEO ボタン

ビデオ

※表示は約4秒間出ます。

※「オンスクリーン表示」を「オフ」に設定しているときは画面表示は出ません。

* セッティングメニューの中の「端子」の設定で「モニター出力」を選択している場合は、「コンピュータ 2」 は表示されません。

インプットメニューで入力を切り換える

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをインプットメニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン下でポインタをメニュー内に下ろして「ビデオ」にポインタを合わせ、［SELECT］ボタンで選択すると信号選択メニューが現われます。

3 ポインタを入力信号の種類に合わせ、［SELECT］ボタンで選んでください。

※ 2台のビデオ機器を接続しているときは、信号選択メニューで「Auto」に設定していても、プロジェクタは入力端子へのプラグの挿入 (信号の有無ではない) を検知して、
1）S-Video、2）Video の接続順位で入力端子を自動選択します。
接続されている入力端子が選択されないときは、信号選択メニューでポインタを合わせ、［SELECT］ボタンで選択してください。

インプット メニュー

信号選択メニュー (ビデオ)
ポインタを入力信号の種類に合わせ、［SELECT］ボタンを押します。

※［COMPUTER IN 2/COMPONENT IN/MONITOR OUT］にビデオ機器からのコンポーネント信号を接続しているときは、「コンピュータ2」から「Component」を選択します。 ☞33ページ

カラーシステムや走査方式を選択する

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをシステムメニューのアイコンに合わせます。

2 ポインタを入力信号に合ったカラーシステムまたは走査方式に合わせ、［SELECT］ボタンで選んでください。

VIDEO または S-VIDEO 端子入力選択時

Auto（自動）

入力信号のカラーシステムにプロジェクタが自動で対応します。

※ 「PAL-M」「 PAL-N」は自動選択されません。上記「*1*」「*2*」の手順で選択してください。

PAL・SECAM・NTSC・NTSC4.43・PAL-M・PAL-N

対応できるカラーシステムの一覧です。日本のカラーシステムはNTSCです。入力信号の状態が悪く、「Auto」に設定してもシステムが自動で選択されないとき（色ムラがある、色が出ないときなど）は、「NTSC」を選んでください。

システム メニュー
（コンポジット映像またはS映像入力時）

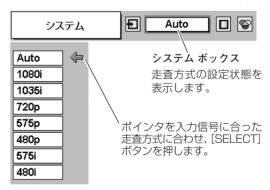
コンポーネント入力選択時

Auto（自動）

入力信号の走査方式にプロジェクタが自動で対応します。

コンポーネント映像の走査方式

正しい映像が再生されないときは、メニュー の中から正しい走査方式を選んでください。

システムメニュー（コンポーネント映像入力時）

イメージの調整

IMAGEボタンでイメージモードを選択する

［IMAGE］ボタンを押すごとに、イメージモードが「ダイナミック」「標準」「シネマ」「黒（緑）板」「イメージ 1」「イメージ 2」「イメージ 3」「イメージ 4」と切り換わります。

ダイナミック

「標準」よりもメリハリの効いた画質を再現することができます。

標　準

「コントラスト」「明るさ」「色の濃さ」「色合い」「色温度」「ホワイトバランス（赤/緑/青）」「画質」「ガンマ補正」「プログレッシブ」「フィルム」が、工場出荷時設定の標準値になります。

シネマ

映画を見るのに適した階調表現を重視した画質に設定します。

黒（緑）板

教室などの緑色をした黒板に投影するとき、白いスクリーンに投影したときに近い色合いを再現します。

イメージ 1～4

イメージ調整メニューでマニュアル調整した画質を呼び出します。
☞次ページ

IMAGE ボタン

ダイナミック → 標　準 → シネマ → 黒（緑）板 → イメージ 1 → イメージ 2 → イメージ 3 → イメージ 4 →（ダイナミックへ戻る）

［IMAGE］ボタンを押すごとに切り換わります。

※表示は約4秒間出ます。
※「オンスクリーン表示」を「オフ」に設定しているときは画面表示は出ません。

イメージ選択メニューでイメージモードを選択する

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをイメージ選択メニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下でポインタをお好みのイメージモードに合わせ、［SELECT］ボタンで決定します。

イメージ選択メニュー

選択中のイメージモード

ダイナミック

「標準」よりもメリハリの効いた画質を再現することができます。

標　準

「コントラスト」「明るさ」「色の濃さ」「色合い」「色温度」「ホワイトバランス（赤/緑/青）」「画質」「ガンマ補正」「プログレッシブ」「フィルム」が、工場出荷時設定の標準値になります。

シネマ

映画を見るのに適した階調表現を重視した画質に設定します。

黒（緑）板

教室などの緑色をした黒板に投影するとき、白いスクリーンに投影したときに近い色合いを再現します。

イメージ 1～4

イメージ調整メニューでマニュアル調整した画質を呼び出します。
☞次ページ

マニュアルでイメージ調整を行なう

手　順

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタを「イメージ調整メニュー」に合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下でポインタを調整したい項目に合わせ、［SELECT］ボタンで選択します。
選んだ項目の調整画面が現われます。調整は画面を見ながら［ポイント］ボタンの左右で行ないます。

3 メモリー

ポインタを「メモリー」に合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、「イメージ調整データ登録」メニューが現われます。登録したいイメージモードにポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、「はい、いいえ」の登録確認メニューが表示されます。「はい」を選択し［SELECT］ ボタンを押すと登録されます。
「いいえ」を選択し［SELECT］ボタンを押すと「イメージ調整データ登録」メニューに戻ります。

※ 調整した項目は「メモリー」で登録しないと保存されません。

リセット

ポインタを「リセット」に合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、「はい、いいえ」の登録確認メニューが表示されます。「はい」を選択し［SELECT］ ボタンを押すと、調整した内容をキャンセルし、調整前の値を表示します。
「いいえ」を選択し［SELECT］ボタンを押すとキャンセルを中止することができます。

メニューを終了します。

項　目

コントラスト

［ポイント］ボタン左でコントラストが薄くなり、［ポイント］ボタン右でコントラストが濃くなります。（0 から 63 まで）

明るさ

［ポイント］ボタン左で映像が暗くなり、［ポイント］ボタン右で映像が明るくなります。（0 から 63 まで）

色の濃さ

［ポイント］ボタン左で色が薄くなり、［ポイント］ボタン右で色が濃くなります。（0 から 63 まで）

色合い

［ポイント］ボタン左で色が紫がかり、［ポイント］ボタン右で色が緑がかります。（0 から 63 まで）

※ カラーシステムが PAL、SECAM、PAL-M、PAL-N のときは、「色合い」の調整はできません。

色温度

［ポイント］ボタンの左右でお好みの色温度（「超低ー低ー中ー高」）を選択します。

※ この項目を調整すると「ホワイトバランス」の調整値も変化します。
※「ホワイトバランス」（赤/緑/青のどれか1つでも）の調整をすると「調整中」と表示されます。

ホワイトバランス（赤/緑/青）

［ポイント］ボタン左で各色調は薄くなり、［ポイント］ボタン右で各色調は濃くなります。（各色 0 から 63 まで）

画　質

［ポイント］ボタン左で映像がやわらかくなり、［ポイント］ボタン右で映像がくっきりなります。（0 から 15 まで）

ガンマ補正

［ポイント］ボタン左右で映像の白レベルから黒レベルまでのコントラストバランスを調整します。（0 から 15 まで）

プログレッシブ

オフ ・・・動きの多い映像でチラツキや横線が目立つときは、「オフ」に設定してください。
L1 ・・・プログレッシブスキャンを「ON」にします。（動画のとき）
L2 ・・・プログレッシブ スキャンを「ON」にします。（静止画のとき）

※ システムメニューで 1080i、1035i、480p、575p、720p、の信号を選択しているときは、「プログレッシブ」は選択できません。

フィルム

「3-2 プルダウン」された映画を投影するときに、映画の質感を損なわずに再生できます。
※ カラーシステムがNTSC、「プログレッシブ」（上記）が「L1」、「L2」のときだけに選択できます。

オン ・・・フィルム機能がはたらきます。
オフ ・・・通常の画質で再生します。

画面サイズを選択する

お好みにより、画面サイズを2種類の中から選択できます。

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右で、ポインタを「スクリーン」メニューに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下で選択したい機能に合わせ、［SELECT］ボタンで決定します。

ノーマル

通常の映像のアスペクト比 (横：縦) 4：3 で投影します。

ワイド

DVDプレーヤー等のワイドモードで出力された映像信号を、アスペクト比 16：9 のワイド画面で投影します。

※「システム」メニューで1080i、1035iまたは720pの信号（アスペクト比16：9）が選択されているときは、「スクリーン」メニューは機能しません。

各種セッティング

1 ［MENU］ボタンを押してメニューバーを出し、［ポイント］ボタンの左右でポインタをセッティングメニューのアイコンに合わせます。

2 ［ポイント］ボタン上下でポインタを設定する項目のアイコンに合わせ、［SELECT］ボタンを押します。
選んだ項目の設定画面が現われます。

言　語

画面表示の言語を切り替える機能です。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、スウェーデン語、ロシア語、中国語、韓国語、日本語の12か国語の中から選べます。

オートセットアップ

オートセットアップ機能の動作内容の設定を行ないます。

自動PC調整

［ポイント］ボタンの左右で「オン・オフ」を切り替えます。

オン ・・・自動PC調整を行ないます。

オフ ・・・動作設定を行ないません。

※ 工場出荷時は「オン」に設定されています。

オートキーストーン

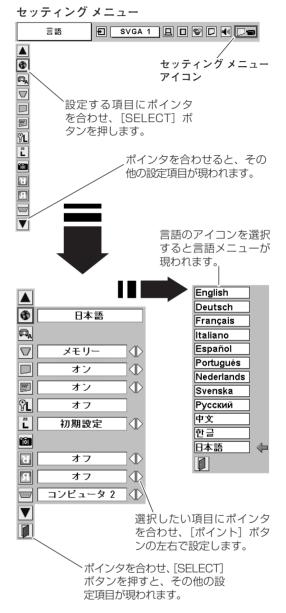
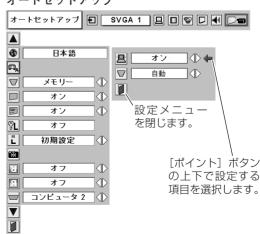
自動 ・・・プロジェクタを傾けると、いつも「オートキーストーン」が自動的に補正を行なうように設定します。

手動 ・・・リモコンの［AUTO SET］ボタン、または本体の「AUTO SET UP」ボタンを押したときに「オートキーストーン」が働くように設定します。

オフ ・・・動作設定を行ないません。

※ 工場出荷時は「自動」に設定されています。
※ 「天吊り」機能が「オン」のときは「オートキーストーン」は選択できません。 ☞50ページ
※ 「オートキーストーン」は上下の台形ひずみ補正する機能で、左右の台形ひずみは手動で補正してください。 ☞47ページ
※ 設置の状況によっては台形ひずみを完全に補正できないこともあります。そのような場合は手動で補正を行なってください。

同時に両方の設定を「オフ」にはできません。
・たとえば、「自動PC調整」を「オフ」にしたときは、「オートキーストーン」は「自動」と「手動」だけの選択になります。
・また、「オートキーストーン」を「オフ」にしたときは、「自動PC調整」は「オン」に設定されます。

セッティング メニュー

オートセットアップ

キーストーン

画面の台形ひずみを補正する機能です。［ポイント］ボタンで「リセット」または「メモリー」を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、画面からメニュー表示が消えて「キーストーン」表示が現われます。［ポイント］ボタンの上下左右で画面の台形ひずみを補正します。「メモリー」、「リセット」は以下のはたらきをします。

メモリー ・・・電源コードを抜いても調整した状態を記憶します。

リセット ・・・電源コードを抜くと調整した状態がリセットされます。

※ 「キーストーン」表示が現れているあいだに、［KEYSTONE］ボタンを押すと、補正前の状態に戻ります。

※ キーストーン調整で補正した画面は信号をデジタル圧縮して映しますので、線や文字がオリジナルの画像と多少異なる場合があります。

ブルーバック

信号のないときにブルーの画面を出す機能です。この機能を「オン」にすると、画像の再生前や中断時のノイズの画面を映さずにブルーの画面を映します。

オンスクリーン表示

画面表示を出す・出さないを選択する機能です。

オン ・・・すべての画面表示を出します。

オフ ・・・以下の画面表示以外は出しません。

・メニューバー表示 ☞32ページ
・電源を切るときの、
　「もう1度押すと電源が切れます」の表示
・P-TIMER表示 ☞29ページ
・自動PC調整の「しばらくお待ちください」の表示
・パワーマネージメント時のタイマー表示 ☞51ページ

ロゴ暗証番号ロック

「ロゴ」の設定・変更を暗証番号を持つ管理者以外できなくします。設定により以下のモードが選択できます。

オン ・・・暗証番号を入れないと「ロゴ」と「キャプチャー」の設定・変更はできません。
オフ ・・・暗証番号なしで「ロゴ」と「キャプチャー」の設定・変更ができます。

1 ［ポイント］ボタン上下でポインタを「ロゴ暗証番号ロック」のアイコンに合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、暗証番号を入力する画面が現れます。
※「オン」「オフ」のどちらを選択していても暗証番号の入力画面は表示されます。

2 暗証番号を入力します。

3 暗証番号が承認されると、「ロゴ暗証番号」の「オン・オフ」の設定と、暗証番号の変更ができる画面が現れます。
「オン・オフ」は［ポイント］ボタンの左右で切り替え、選択します。
暗証番号の変更は次ページを参照ください。

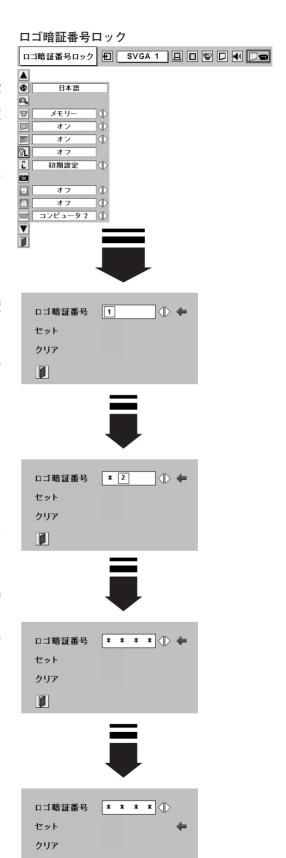
4 終了するときは、［ポイント］ボタン下でポインタを に移動し、［SELECT］ボタンを押します。

暗証番号の入力方法

1 ［ポイント］ボタン上下で「ロゴ暗証番号」を選択します。
「ロゴ暗証番号」の最初のけたが選択されます。

2 ［ポイント］ボタンの左右で0〜9の数字を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、数字の表示が「*」に変わります。
これで１けた目が決定されました。
この操作を繰り返し、「*」が4つ並んでいれば、4けた全ての数字が決定しています。
※ 工場出荷時の暗証番号は、「4321」です。
※ 数字の入力をやりなおしたいときは、［ポイント］ボタン下で「クリア」を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、「*」が消え入力をやりなおすことができます。

3 4けた全てが決定すると、ポインタが自動的に「セット」に移動します。［SELECT］ボタンを押すと「ロゴ暗証番号ロック」の選択メニューが表示されます。☞上記『手順*3*』

ロゴ暗証番号ロック

次ページへ

暗証番号を変更する

1 ［ポイント］ボタン上下で「ロゴ暗証番号変更」を選択します。「新ロゴ暗証番号」の最初のけたが選択されます。

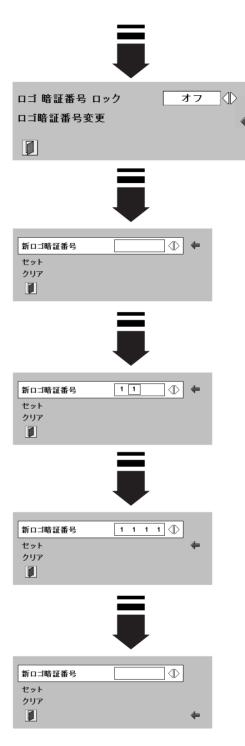
2 ［ポイント］ボタンの左右で0～9の数字を選択し、［SELECT］ボタンを押し、新しい4けたの暗証番号を入力・決定します。この操作を繰り返し、4けた全ての数字を決定します。

※ このときは決定した数字も見えています。変更後の数字をはっきり確認していただけるように、数字を見せています。

3 4けた全てが決定すると、ポインタが自動的に「セット」に移動します。［SELECT］ボタンを押すとポインタが自動的に に移動します。これで新しい暗証番号が登録されました。

このとき、［SELECT］ボタンを押すと、入力画面から抜けることができ、「ロゴ暗証番号ロック」メニューの画面まで戻ります。

メモ

・入力を中断し、この機能を操作するのをやめるときは、［ポイント］ボタンの上下で を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、「ロゴ暗証番号変更」メニューの画面まで戻ります。
・数字の入力をやりなおしたいときは、［ポイント］ボタン下で「クリア」を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、入力をやりなおすことができます。
・以下のようなときは、エラーを表しています。入力をやりなおしてください。
  ・「ロゴ暗証番号」と入力した数字(見た目は「＊」)とその枠が赤く表示された。
  ・「ロゴ暗証番号」と入力する枠が赤く表示された。
  ・「新ロゴ暗証番号」と入力した数字とその枠が赤く表示された。
  ・「新ロゴ暗証番号」と入力する枠が赤く表示された。

電源を入れたときのロゴ表示を選択することができます。

ユーザー ・・・キャプチャー機能で取り込んだ画像を表示します。

初期設定 ・・・工場出荷時の設定を表示します。

オフ ・・・・・ ロゴ表示を画面に出しません。

キャプチャー

投影している画面を取り込んで、スタートアップロゴにすることができます。
取り込んだ画像をスタートアップロゴにするときは、「ロゴ」機能で「ユーザー」を選択してください。（前ページ「ロゴ」参照）

1 ［ポイント］ボタン下でポインタを「キャプチャー」のアイコンに合わせ、［SELECT］ボタンを押すと、「はい」、「いいえ」の表示が現れます。

はい ・・・・画面の取り込みを始めます。

いいえ ・・・キャプチャー機能を取り消します。

2 はい を選択すると、取り込みを始めます。
取込の進行を示すバーが現れます。
取り込みが完了するとメニュー表示は消えます。
このとき、取り込みを中止したいときは、バーの上にある「戻る？」の はい * を選択し［SELECT］ボタン押します。

※「ユーザー」へ保存できるのは１画面のみです。
※ 適切な画面を取り込むために、イメージモードは標準を選択しておいてください。
※ 画像を取り込むときは「キーストーン」調整を一時的に解除します。
※ この機能が使えるのは以下の信号のときです。
　コンピュータ・・・XGA以下（ただし、「画面領域」を1280 x 1024ドットなどに設定すると不可）
　ビデオ・・・コンポジット、Sビデオ、480p、575p、480i、575i
※「ロゴ暗証番号ロック」が「オン」のとき、この機能は設定できません。☞48ページ

ご注意＊

「戻る？」で「はい」を選択すると、すでに「ユーザー」に保存していた画像の登録も削除されます。

天吊り

この機能を「オン」にすると、画像の上下左右を反転して映します。天井から逆さに吊り下げて設置するときに設定します。

※ 吊り下げ型の設置には、専用の天吊り金具を使います。
　詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

天吊り機能

リア投映機能

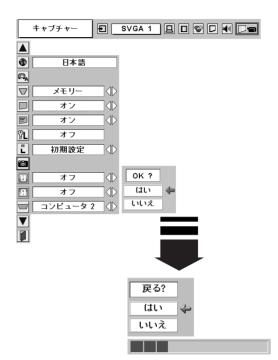
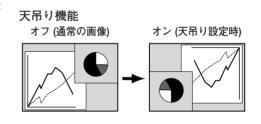
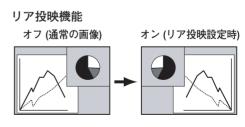
リア投映

この機能を「オン」にすると、画像の左右を反転して映します。透過型スクリーンの後ろから投影するときに設定します。

端　子

本機の後ろにある［COMPUTRE IN 2/COMPONENT IN/MONITOR OUT］端子の切換えを行ないます。入力端子としてターミナルを使用するためには、「コンピューター2」を、「コンピューター1」の出力端子として使用するためには、「モニター出力」を選んでください。
※ 工場出荷時は「コンピュータ 2」に設定されています。

スタンバイモード

別売の『Multi Card Director』を装着しているときに使用する機能です。

パワーマネージメント

パワーマネージメント機能の動作設定を行ないます。

［ポイント］ボタン右で「オフ」➔「待機」➔「シャットダウン」の順に表示が切り替わります。

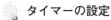
［SELECT］ボタンを押して設定画面に入ります。

ポインタを合わせ［SELECT］ボタンを押すと、前の表示画面に戻ります。

オフ ・・・・・・ パワーマネージメント機能を解除します。

待機 ・・・・・・設定された時間が経つとランプが消灯しランプ冷却動作に入ります。ランプの冷却が完了すると［POWER］インジケータが緑の点滅を始めます。この時信号が入力されたり、プロジェクタが操作されるとランプが点灯し、画像が投影されます。

シャットダウン ・・設定された時間が経つとランプが消灯し電源が切れます。

タイマーの設定

- ［ポイント］ボタンの左右でパワーマネージメント機能が動作を開始するまでの時間を設定します。1～30分の範囲で設定できます。
- パワーマネージメント動作詳細については26ページを参照ください。

※ 工場出荷時は「待機・5分」に設定されています。
※ パワーマネージメントがはたらくと、「P-TIMER（☞29ページ)」はリセットされます。

ランプ消灯までの時間

オンスタート

電源コードを接続すると、リモコンや操作パネルの［ON-OFF］ボタンを押さなくても自動的にプロジェクタの電源を入れる機能です。

オン ・・・電源コードを接続すると同時にプロジェクタの電源が入ります。

オフ ・・・通常の電源の入り・切りを行ないます。電源コードを接続しても、リモコンまたは操作パネルの ［ON-OFF］ボタンを押さなければプロジェクタの電源は入りません。

※ 工場出荷時は「オフ」に設定されています。

電源オン・オフは正しい操作で行なってください。

ランプ冷却中に電源コードを抜かないでください。ランプの回路の故障の原因になります。またランプの冷却が終わり、再点灯できる状態になるまで［ON-OFF］ボタンを押しても電源は入りません。

ランプモード

「ノーマルモード」、「オートモード」、「エコモード」の選択ができます。「エコモード」は、ランプの消費電力を抑えることができます。

 明るい表示・・・**ノーマルモード**

 明るい表示に「A」・・・**オートモード**

 上部がグレーの表示・・・**エコモード**

※［ポイント］ボタン右で ➔ ➔ の順に表示が切り換わります。

※「オートモード」は調光回路が働いて、明るさを自動的に調整します。

ポインタ

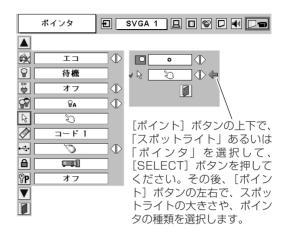
この機能を使うときに表示させるポインタの種類を選択します。

ポインタをポインタアイコンに合わせ、[SELECT] ボタンを押すと、ポインタの種類を選択するメニューが現われます。[ポイント] ボタンの上下で表示させたいポインタを選択します。さらに [ポイント] ボタンの左右で大きさや種類を選択します。

スポットライト・・・大･中･小

ポインタ・・・指先･矢印･ドット（赤い点）

この機能の操作は58ページを参照ください。

[ポイント] ボタンの上下で、「スポットライト」あるいは「ポインタ」を選択して、[SELECT] ボタンを押してください。その後、[ポイント] ボタンの左右で、スポットライトの大きさや、ポインタの種類を選択します。

リモコンコード

本機は8種類のリモコンコード（「コード１」～「コード８」）の設定が可能です。複数のプロジェクタを使用するときにリモコンコードを使い分けて使用することができます。

工場出荷時は「コード１」に設定されています。

リモコンコードを他のコード（「コード２」～「コード８」）に変更する場合、プロジェクタ本体とリモコンの両方をあわせて切換える必要があります。

プロジェクタのリモコンコードを切り換えるにはメニューのリモコンコードを選択し、設定するリモコンコードを選択します。リモコンのコードの切り替えは、リモコン本体で行ないます。

（18 ページ「リモコンコードの設定」参照）

USB

本機の [USB] 端子にコンピュータのUSB端子を接続し、コンピュータと連結してプロジェクタを使用するときのUSB端子の機能選択を行ないます。[ポイント] ボタンの左右で機能の選択を行ないます。

・・・ 本機のリモコンをコンピュータのマウスとして使用するときに選択します。

・・・ USB端子をプロジェクタの制御などに使用するときに選択します。

※ この機能は将来のために設けられているものです。現時点ではご使用になれません。

※ 工場出荷時は「 」に設定されています。

キーロック

操作ボタンをロックして、プロジェクタが誤って操作されることを防ぎます。たとえば、リモコンをプロジェクタの鍵として使うこともできます。

・・・ 操作パネルからの操作をロックします。

・・・ リモコンの操作をロックします。

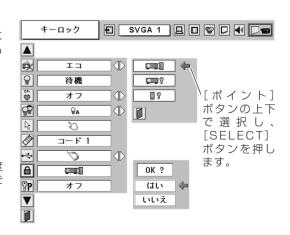
・・・ キーロックは「オフ」の状態です。

※ 工場出荷時は「オフ」に設定されています。

※ 操作パネルをロックしてしまい、手元にリモコンがないときは、一度電源コードを抜いて、[SELECT] ボタンを押しながら、電源コードをさし、プロジェクタの電源を入れると、キーロックが解除されます。

[ポイント] ボタンの上下で選択し、[SELECT] ボタンを押します。

暗証番号ロック

暗証番号により、プロジェクタの管理者以外のプロジェクタの操作を防止します。設定により以下のモードが選択できます。
☞25ページ

オフ ・・・「暗証番号ロック」を解除します。通常の操作をすることができます。

オン1 ・・・電源を入れるときに暗証番号が要求されます。

オン2 ・・・一度入力した暗証番号は、電源コードを抜くまで有効です。一度電源コードを抜くと、その次に電源を入れるときに暗証番号が要求されます。［ON-OFF］ボタンで電源の入り・切りをするだけで、電源コードを抜かないときは、暗証番号が要求されることなく、通常の操作をすることができます。

1 ［ポイント］ボタン上下でポインタを「暗証番号ロック」のアイコンに合わせ、［SELECT］ボタンを押します。もう一度［SELECT］ボタンを押すと暗証番号を入力する画面が現れます。

2 暗証番号を入力します。
※ 下記「暗証番号の入力方法」を参照ください。

3 暗証番号が承認されると、「暗証番号」の「オン1・オン2・オフ」の設定と、暗証番号の変更ができる画面が現れます。
「オン1・オン2・オフ」は［ポイント］ボタンの左右で切り替え、選択します。
暗証番号の変更は次ページを参照ください。

4 終了するときは、［ポイント］ボタン下でポインタを ▯ に移動し、［SELECT］ボタンを押します。

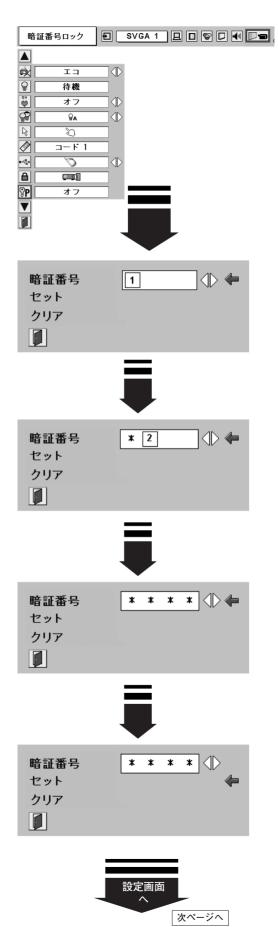
暗証番号の入力方法

1 ［ポイント］ボタン上下で「暗証番号」を選択します。
「暗証番号」の最初のけたが選択されます。

2 ［ポイント］ボタンの左右で0～9の数字を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、数字の表示が「＊」に変わります。
これで1けた目が決定されました。
この操作を繰り返し、「＊」が4つ並んでいれば、4けた全ての数字が決定しています。
※ 工場出荷時の暗証番号は、「1234」です。
※ 数字の入力をやりなおしたいときは、［ポイント］ボタン下で「クリア」を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、「＊」が消え入力をやりなおすことができます。

3 4けた全てが決定すると、ポインタが自動的に「セット」に移動します。［SELECT］ボタンを押すと「暗証番号ロック」の選択メニューが表示されます。☞上記『手順*3*』

メモ

数字の入力をやりなおしたいときは、［ポイント］ボタン下で「クリア」を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、「＊」が消え、入力をやりなおすことができます。
※ 以下のようなときは、エラーを表しています。入力をやりなおしてください。
・「ロゴ暗証番号」と入力した数字(見た目は「＊」)とその枠が赤く表示された。
・「ロゴ暗証番号」と入力する枠が赤く表示された。

暗証番号を変更する

1 ［ポイント］ボタン上下で「暗証番号変更」を選択します。
「新暗証番号」の最初のけたが選択されます。

2 ［ポイント］ボタンの左右で0〜9の数字を選択し、［SELECT］ボタンを押し、新しい4けたの暗証番号を入力・決定します。
この操作を繰り返し、4けた全ての数字を決定します。
※ このときは決定した数字も見えています。変更後の数字をはっきり確認していただけるように、数字を見せています。

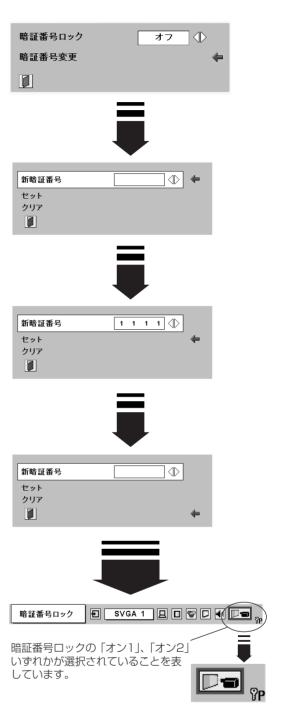
3 4けた全てが決定すると、ポインタが自動的に「セット」に移動します。［SELECT］ボタンを押すとポインタが自動的に に移動します。これで新しい暗証番号が登録されました。

このとき、［SELECT］ボタンを押すと、入力画面から抜けることができ、「暗証番号ロック」メニューの画面まで戻ります。

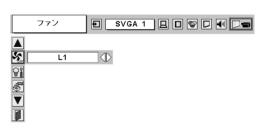
・入力を中断し、この機能を操作するのをやめるときは、［ポイント］ボタンの上下で を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、「暗証番号ロック」の画面まで戻ります。

・数字の入力をやりなおしたいときは、［ポイント］ボタン下で「クリア」を選択し、［SELECT］ボタンを押すと、入力をやりなおすことができます。

・以下のようなときは、エラーを表しています。入力をやりなおしてください。
  ・「新暗証番号」と入力した数字とその枠が赤く表示された。
  ・「新暗証番号」と入力する枠が赤く表示された。

暗証番号ロックの「オン1」、「オン2」いずれかが選択されていることを表しています。

電源を切ったときの冷却ファンの回転動作を切り替えることができます。

L1 ・・・自動でファンの回転速度を調整します。
「L2」より大きい音がします。
電源を切ったとき、冷却のためにファンの回転速度があがり、投影時よりファンの音が気になるときがあります。

L2 ・・・ファンの回転速度を投影時と同じに調整し、ファンの音が大きくならないようにします。ただし、「L1」よりファンの停止に時間がかかります。

ランプカウンターリセット

ランプカウンターをリセットするメニューです。ランプ交換後は必ずランプカウンターをリセットしてください。リセットすると［LAMP REPLACE］インジケータ(黄)の点灯が消えます。

「ランプカウンターリセット」のアイコンにポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押すと「ランプカウンターリセット？」の表示が現われます。

⚠ 注意　ランプを交換したとき以外はリセットしないでください。

1 ［ポイント］ボタン上下でポインタを「ランプカウンターリセット」のアイコンにポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。

2 「ランプカウンターリセット？」が現われますので、［ポイント］ボタンの上下で はい にポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。

3 さらに、「OK？」の表示が現れますので、［ポイント］ボタンの上下で はい にポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。カウンターがリセットされます。

下記の設定以外を、工場出荷状態に戻します。

・ランプカウンター（点灯時間）
・ロゴ暗証番号ロック
・暗証番号ロック
・ユーザーロゴ

※ この設定は電源コードを抜いても有効です。

 ご注意

この設定が実行されると、お客さまが設定された内容はすべて失われ、各設定内容は工場出荷時の状態となります。

「初期設定」のアイコンにポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押すと「初期設定へ戻しますか？」の表示が現われます。

1 ［ポイント］ボタン上下で「初期設定」のアイコンにポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。

2 「初期設定へ戻しますか？」が現われますので、［ポイント］ボタンの上下で はい にポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。

3 さらに、「OK？」の表示が現れますので、［ポイント］ボタンの上下で はい にポインタを合わせ、［SELECT］ボタンを押します。設定が工場出荷時に戻ります。

暗証番号がわからなくなったとき

暗証番号を忘れるとプロジェクタの操作ができなくなります

暗証番号を忘れると、プロジェクタの操作ができなくなります。以下の記入欄に登録した暗証番号を書き留めておくことをおすすめします。ただし、第三者に見られたり、持ち出されたりしないように、取扱説明書は大切に保管してください。暗証番号がわからなくなってしまったときは、お買い上げの販売店へご相談ください。

暗証番号ロック
の暗証番号

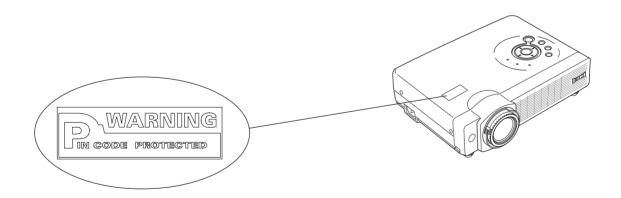
工場出荷時の暗証番号：　１２３４*

ロゴ暗証番号ロック
の暗証番号

工場出荷時の暗証番号：　４３２１*

*暗証番号を変更された場合は、工場出荷時の暗証番号は無効になります。

暗証番号が登録されていることをシールでわかるようにしましょう

暗証番号を登録し、暗証番号を有効にしているとき、付属のシールを本体の目立つところへ貼り付けます。

リモコンでコンピュータを操作する

付属のリモコンはコンピュータのワイヤレスマウスとしてお使いいただけます。

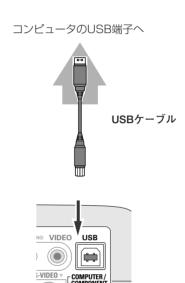
準備をしてください

はじめにコンピュータにUSB端子があることを確認してください。
USB端子以外の端子ではご使用になれません。

1 付属のUSBケーブルで、コンピュータのUSB端子と、本機の［USB］端子を接続します。

2 USBケーブルを接続したら、はじめにプロジェクタの電源を入れてからコンピュータを立ち上げてください。先にコンピュータを立ち上げると正しく動作しない場合があります。

マウス機能を使うときは、以下のことを確認してください。

①「セッティング」メニューの「ＵＳＢ」で「　」が選択されている。（☞52ページ）
②コンピュータ入力が選択されている。（下記のいずれか）
　・「コンピュータ１」の「ＲＧＢ（アナログ）」
　・「コンピュータ１」の「ＲＧＢ（PC デジタル）」
　・「コンピュータ2」の「ＲＧＢ」
③電源が「オン」になっていて、ランプが点灯している。

マウスポインタの動かし方

マウスポインタの操作は、「マウスポインタボタン」「左クリックボタン」「右クリックボタン」で行ないます。

マウスポインタボタン

マウスポインタの移動を行ないます。
上下左右方向を押すと、マウスポインタが移動します。

左クリック ボタン

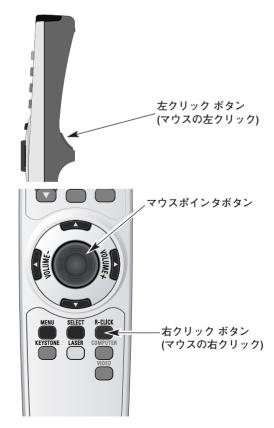
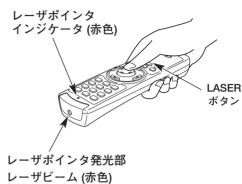
コンピュータマウスの左クリックのはたらきをします。

右クリック ボタン

コンピュータマウスの右クリックのはたらきをします。

ポインタの操作

レーザポインタ

警　告

リモコンのレーザポインタの発光部をのぞき込んだり、人や鏡など反射するものに向けたりしないでください。目を傷める原因になります。また、リモコンを分解したり、お子様に使わせたりしないでください。

リモコンの［LASER］ボタンを押している間［レーザポインタ］インジケータ (赤色) が点灯し、リモコンのレーザポインタ発光部からレーザビームが出ます。 ☞15ページ
ボタンを押すのを止めると、レーザビームの発光は止まります。
※ ［LASER］ ボタンは操作パネルにはありません。
※ ［LASER］ボタンを押し続けても、1分経つと安全のため自動的にレーザビームの発光が止まります。
［LASER］ボタンを押すのを止め、再び ［LASER］ボタンを押すと、レーザビームが出ます。

スポットライト･ポインタ機能に切り換える

レーザビームをスポットライトやポインタ表示に切り換えることができます。

1 ［MENU］ボタンと［NO SHOW］ボタンを同時に10秒以上押します。レーザポインタ機能からポインタ機能に切り替わります。

2 リモコンの［LASER］ボタンを押して、［LASER］ボタンが緑に点灯するか確かめてください。緑に点灯していれば、スポットライト、またはポインタが表示されます。［プレゼンテーション］ボタンで、スポットライトまたはポインタを画面上で移動させることができます。
※［LASER］ボタンが緑に点灯せず、レーザビームが発光する場合は、ポインタ機能に切り替わっていません。［LASER］ ボタンが緑に点灯するまで、「*1*」の作業を行なってください。

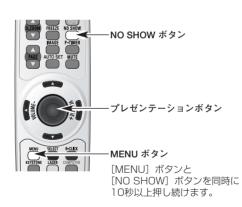
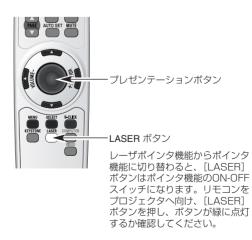
3 スポットライトまたはポインタの表示を消すときは、リモコンをプロジェクタに向けて、［LASER］ボタンを押します。リモコンの［LASER］ボタンの緑の点灯も消えます。
※ レーザポインタ機能に戻すときは、［MENU］ボタンと［NO SHOW］ボタンを同時に10秒以上押します。ポインタ機能からレーザポインタ機能に切り替わります。

［MENU］ボタンと
［NO SHOW］ボタンを同時に
10秒以上押し続けます。

レーザポインタ機能からポインタ機能に切り替わると、［LASER］ボタンはポインタ機能のON-OFFスイッチになります。リモコンをプロジェクタへ向け、［LASER］ボタンを押し、ボタンが緑に点灯するか確認してください。

スポットライト

ポインタ

スポットライト･ポインタの大きさや形を選ぶことができます。 ☞52ページ
· スポットライト：大･中･小
· ポインタ：指先･矢印･ドット(赤い点)

ランプの交換

LAMP REPLACEインジケータの点灯

［LAMP REPLACE］インジケータ（黄）の点灯は、ランプ交換時期の目安です。［LAMP REPLACE］インジケータ（黄）が点灯した場合は、ランプをすみやかに交換してください。［LAMP REPLACE］インジケータは、ランプカウンターをリセットするまで電源「ON(入)」のときに点灯します。なお、［LAMP REPLACE］インジケータが点灯する前に寿命が尽きる場合もあります。

ランプの交換のしかた

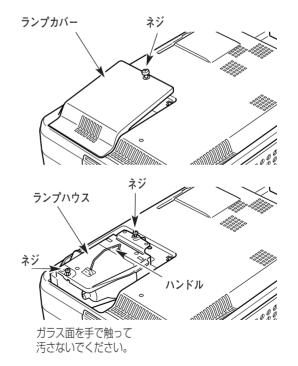
ランプの交換はランプハウスごと行ないます。必ず指定のランプハウスを取りつけてください。交換ランプはお買い上げの販売店にご相談ください。また、ご注文の際には、つぎのことをお知らせください。

- **交換ランプの品番：POA-LMP65**
  (サービス部品コード：610 307 7925)
- **プロジェクタの品番　：LC-SB21D**

⚠ 注意	動作中、ランプは大変高温になります。ランプを交換するときは、本機の電源を切り、ファン停止後に電源コードを抜き、45分以上放置してから行なってください。動作停止後すぐに手で触ると、やけどをするおそれがあります。

1. 電源を切り、電源コードを抜きます。必ず45分以上放置してください。
2. (+)ドライバーで1本ネジをゆるめてランプカバーを外します。
3. ランプハウスの2本のネジをゆるめ、ハンドルを持ってランプハウスごと引き出します。
4. 交換用のランプハウスを本体の奥までしっかり押し込み、2本のネジを締めて固定します。
5. ランプカバーを取り付け、ネジを締めて固定します。

ランプカウンターをリセットします

ランプ交換後は必ずランプカウンターをリセットしてください。リセットすると［LAMP REPLACE］インジケータ(黄)の点灯が消えます。
ランプカウンターのリセットのしかたは、55ページの「ランプカウンターリセット」の設定を参照ください。

⚠ランプについての安全上のご注意

プロジェクタの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。この水銀ランプはつぎのような性質を持っています。

- 衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態、画像が次第に暗くなる、色合いが不自然になるなどして寿命が尽きたりします。
- ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯、寿命に至るまでの時間はそれぞれのランプで大きく異なります。使用開始後まもなく破裂したり、不点灯になる場合もあります。
- 交換時期を超えてお使いになると、破裂の可能性が一段と高くなります。ランプ交換の指示が出たら（[LAMP REPLACE] インジケータが点灯したら）すみやかに新しいランプと交換してください。
- 万が一、ランプが破裂した場合に生じたガスを吸い込んだり、目や口に入らないように、ご使用中は排気口に顔を近づけないでください。

⚠ ランプが破裂した場合

プロジェクタ内部にガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスや粉じんが排気口から出たりすることがあります。ランプ内部のガスには水銀が含まれています。破裂した場合は窓や扉を開けるなど部屋の換気を行ってください。万一吸い込んだり、目や口に入った場合はすみやかに医師にご相談ください。

ランプが破裂した場合、プロジェクタ内部にガラス片が散乱している可能性があります。お客様相談センターへプロジェクタ内部の清掃とランプの交換、プロジェクタ内部の点検をご依頼ください。

⚠ 使用済みランプの廃棄について

プロジェクタランプの廃棄は、蛍光灯と同じ取り扱いで、各自治体の条例に従い行ってください。

お手入れについて

本機の性能を維持し、安全にご使用いただくために、注意事項をよくお読みの上、正しくお手入れください。

● 長い間ご使用にならないとき ●

レンズや本体にホコリが付着しないよう、レンズキャップをはめ、キャリーバッグに納めて保管してください。

● キャビネットのお手入れ ●

キャビネットや操作パネルの部分の汚れはネルなどの柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。

● キャビネットをいためないために ●

キャビネットにはプラスチックが多く使われています。キャビネットに殺虫剤など揮発性のものをかけたり、ゴムや粘着テープ、ビニール製品を長期間接触させないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

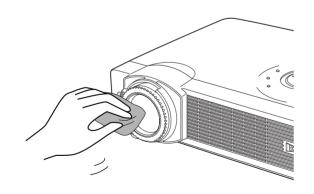
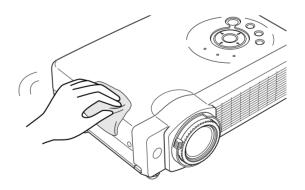
● ベンジン・シンナーは使わないで ●

ベンジンやシンナーなどでふきますと変質したり、塗料がはげることがあります。また化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

● レンズのお手入れ ●

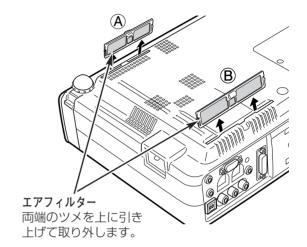
レンズ表面の掃除は、カメラ用に市販されているブロワーブラシやレンズクリーナー (カメラやメガネの掃除用に市販されているクロスやペーパー) で行なってください。レンズの表面は傷がつきやすいので、固いものでこすったり、たたいたりしないでください。

● エアフィルターのお手入れ ●

吸気口のエアフィルターは、内部のレンズやミラーをホコリや汚れから守っています。エアフィルターはこまめに掃除してください。(掃除のしかたは 、次ページを参照)

エアフィルターはこまめに掃除してください

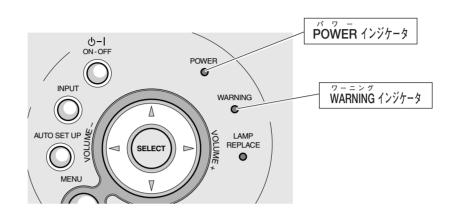
吸気口のエアフィルターは、内部のレンズやミラーをホコリや汚れから守っています。エアフィルターにホコリがたまると空気の通りが悪くなり、内部の温度上昇を招いて故障の原因になります。エアフィルターは、こまめに掃除してください。

1. プロジェクタの電源を切り、冷却ファンの回転が止まったことを確認し、電源プラグをコンセントから抜きます。掃除は必ず電源を切ってから行なってください。
2. プロジェクタを裏返します。エアフィルターの両端のツメを上に引き上げて、エアフィルターをはずします。
3. エアフィルターのホコリをブラシで取ります。
4. エアフィルターを取り付けます。

エアフィルターの汚れがひどいときは、水洗いの後よく乾かしてから取り付けてください。取り替え用エアフィルター (別売) は、お買い上げの販売店にご相談ください。

取り替え用エアフィルターの品番：フィルターA　AF-XB25A
フィルターB　AF-XB25B

●お掃除の際にご注意ください●

・ エアフィルター部の穴から内部へ、ものを差し込まないでください。内部には高電圧の部分や回転する部分があり、ふれると感電やけがの恐れがあります。また、冷却ファンの故障にもつながります。
・ エアフィルターを取り外した状態でプロジェクタを使用しないでください。液晶パネル、レンズ、ミラーなどを汚し、画質を損なう原因になります。
・ エアフィルターは、ていねいに扱ってください。穴があいたり、破れたりすると、フィルターの効果が損なわれます。

内部の温度上昇について

［WARNING］インジケータの点滅

本機内部の温度が高くなると［WARNING］インジケータ が赤く点滅し、保護のために自動的に電源が切れ、［POWER］インジケータが赤く点滅します。（［WARNING］インジケータも点滅を続けます。）温度が下がると［POWER］インジケータが赤く点灯し、リモコンおよび本体の［ON-OFF］ボタンで電源を入れることができます。電源を入れると［WARNING］インジケータの点滅が消えます。［WARNING］インジケータの点滅が消えないときは、次のことを確認してください。

ここを確認してください

- 底面のエアフィルターにホコリがたまっていませんか。エアフィルターを掃除してください。
- 排気口や吸気口がふさがれていませんか。通気を妨げるような設置をしないでください。
- 使用温度範囲を超えた温度の場所で使用していませんか。（使用温度範囲：5℃～35℃）
- 上記のいずれでもない場合は、冷却ファンまたは内部回路の故障が考えられます。お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

電源を入れるときは、［POWER］インジケータが点灯していることを確認してください。内部の温度が下がっていない場合は、再び［WARNING］インジケータが点滅して電源が切れます。

プロジェクタの電源が切れ［WARNING］インジケータ が点灯しているとき

プロジェクタ内部で異常が検出されると、プロジェクタの電源が切れ、［WARNING］インジケータが赤く点灯を始めます。このとき、リモコンおよび本体の［ON-OFF］ボタンでの電源入り切りはできなくなります。
このような時は、電源コードを一旦コンセントから抜いて電源を入れ直しプロジェクタの動作を確認してください。再び電源が切れ、［WARNING］インジケータが点灯する場合、プロジェクタの点検をお買い上げの販売店、またはお客様相談センターにご依頼ください。電源コンセントを接続したまま放置しないでください。火災や事故の原因となります。

インジケータ表示とプロジェクタの状態

プロジェクタの各インジケータはプロジェクタの動作状態を表示しています。ご使用中うまく動作しないなど、動作が不明なときは、下表にしたがい各インジケータでプロジェクタの動作を確認してください。
また、インジケータはメンテナンスをお知らせします。プロジェクタをよりよい性能で長期間ご使用いただくために、これらのインジケータの指示にしたがい適切なメンテナンスを行なってください。

インジケータの名称と点灯状態			プロジェクタの状態
POWER 緑/赤	WARNING 赤	LAMP REPLACE 黄	
●（消灯）	●（消灯）	●（消灯）	電源コードがコンセントから抜けています。
点灯：赤	●（消灯）	※	プロジェクタはスタンバイ状態です。［ON-OFF］ボタンを押すと動作します。
○（点灯：緑）	●（消灯）	※	プロジェクタは正常に動作しています。
点滅：赤	点滅：赤	※	プロジェクタの内部温度が高くなっています。［ON-OFF］ボタンを押しても電源は入りません。プロジェクタが冷却され、正常な温度になると、［POWER］インジケータが点灯に変わります。［ON-OFF］ボタンを押してプロジェクタを始動することができます。（［WARNING］インジケータは点滅したままです。）エアフィルターの点検などを行なってください。
点灯：赤	点滅：赤	※	内部の冷却が完了し、正常な温度に戻りました。［ON-OFF］ボタンを押すと、［WARNING］インジケータの点滅は消え、プロジェクタが動作します。エアフィルターの点検などを行なってください。
点滅：赤	●（消灯）	※	電源コードをコンセントへ入れ、スタンバイ状態になるまで、または、ランプの冷却中です。インジケータが赤の点灯に変わるまで、［ON-OFF］ボタンを押して始動することはできません。
●（消灯）	点灯：赤	※	プロジェクタの内部に異常が検出されました。［ON-OFF］ボタンを押しても電源は入りません。一度電源コードをコンセントから抜き、電源を入れ直してください。再び電源が切れ、インジケータが点灯するときは、電源コードをコンセントから抜き、点検と修理をお客様相談センターへご依頼ください。点灯したままで放置しないでください。火災や感電の原因となります。
点滅：緑	●（消灯）	※	パワーマネージメントモードになっています。プロジェクタを操作すると、ランプが点灯し、プロジェクタが動作をはじめます。

○ ･･･点灯：緑　○ ･･･点滅：緑　◍ ･･･点灯：赤　◍ ･･･点滅：赤　● ･･･消灯

※･･･［LAMP REPLACE］インジケータが点灯するとランプの寿命です。（正常時は消灯）すみやかにランプを新しいものと交換してください。ランプ交換後は、ランプカウンターをリセットしてください。☞55ページ

故障かなと思ったら

アフターサービスを依頼される前に、つぎのことをお確かめください。

こんなときは	ここを確認してください	参照ページ
電源が入らない	● 電源コードは接続されていますか。 ● 電源は入っていますか。［ON-OFF］ボタンを押してみてください。 ● ［POWER］インジケータが消えているとき、または赤く点滅しているときは、［ON-OFF］ボタンを押しても電源が 入りません。 ● ［WARNING］インジケータが赤く点滅しているときは、内部の温度が過度に高くなっており、［ON-OFF］ボタンを押しても保護のため電源は入りません。温度が 下がるまでお待ちください。 ●「キーロック」がはたらいていませんか。リモコンの［ON-OFF］ボタンを押してみてください。	25、26 63 52
画像が映らない	● コンピュータやビデオ機器は正しく接続されていますか。接続を確認してください。 ● 電源を入れたあと約20秒間はオープニング画面が出て、画像は映せません。（「オンスクリーン表示・オフ」のときをのぞく） ● レンズキャップをとりましたか。 ● コンピュータモードのときはコンピュータのシステムモードが、ビデオモードのときは信号の種類とカラーシステムや走査方式が合っていますか。 ● 使用温度範囲（5℃〜35℃）からはずれていませんか。 ●「NO SHOW」モードになっていませんか。リモコンまたは操作パネルのボタンを押してみてください。 ● コンピュータの映像を外部出力にする設定は、ケーブルをつないだ後に行なってください。設定方法はコンピュータの取扱説明書をご覧ください。	13. 21~23 25 34、42
音が出ない	● コンピュータやビデオ機器の音声は正しく接続されていますか。接続を確認してください。 ● 音量が最小になっていませんか。［VOLUME ＋］ボタンを押してみてください。 ● 消音状態になっていませんか。［MUTE］ボタンを押すか、［VOLUME ＋］ボタンを押してみてください。 ● ［AUDIO OUT］端子にプラグがささっていませんか。［AUDIO OUT］端子にプラグがささっていると内蔵スピーカから音は出ません。 ● 抵抗内蔵のオーディオケーブルを使用していませんか。抵抗なしのオーディオケーブルを使用してください。	13. 21~23
画像が不鮮明	● フォーカスは合っていますか。フォーカスを合わせてください。 ● スクリーンとの距離がフォーカスの合う範囲からはずれていませんか。 ● スクリーンに対して過度に斜めに投影しているときは、画面に台形ひずみ (あおり) ができ、 部分的にフォーカスが合わなくなることがあります。 ● 温度の低い所から急に暖かい所へ持ち込んだとき、空気中の水分がレンズやミラー表面に結露し、画像がぼやけることがあります。しばらくすると通常の画像に戻ります。	28 19 20、27
映像が左右（上下）逆さまに映っている	● 「リア投映」や「天吊り」機能が「オン」になっていませんか。「セッティング」を確認してください。	50
オンスクリーンメニューが出ない	● 「オンスクリーン表示」が「オフ」になっていませんか。「セッティング」を確認してください。	47
「コンピュータ２」が表示されない	● 「端子」が「モニター出力」になっていませんか。「セッティング」を確認してください。	50
リモコンで操作できない	● 電池は正しく入っていますか。＋－を正しく入れてください。 ● 電池がなくなっていませんか。新しい電池と交換してください。 ● 本体のリモコン受信部とリモコンの間に障害物はないですか。リモコンはリモコン受信部に向けて操作してください。障害物があれば移動させてください。 ● リモコンの受信範囲から、はずれていませんか。受信範囲で操作してください。 ● リモコンの［ALL OFF］スイッチが、「ON」側になっているか確認してください。 ● リモコンコードを切り換えていませんか。リモコンコードを確認してください。 ●「キーロック」でリモコンからの操作をロックしていませんか。操作パネルから「セッティング」を確認してください。	17 17 17 17 16 18、52 52

こんなときは	ここを確認してください	参照ページ
コンピュータのワイヤレスマウスとして動作しない	● マウスコントロールケーブルは正しく接続されていますか。 ● 接続するコンピュータにマウスドライバがインストールされていますか。ワイヤレスマウスとして使うにはコンピュータにマウスドライバがインストールされている必要があります。 ●「セッティング」メニューの「USB」で「 」が選択されていますか。 ● コンピュータ入力が選択されていますか。ワイヤレスマウスとして使うには、「コンピュータ 1」の「RGB（アナログ)」、「コンピュータ 1」の「RGB（PC デジタル)」、「コンピュータ 2」の「RGB」のいずれかが選択されているときです。 ● 一旦電源を切り、プロジェクタの電源を先に入れてから、コンピュータを立ち上げてみてください。	21、57 57
電源を入れたら、暗証番号を要求された	●「暗証番号ロック」が設定されています。登録した（または工場出荷時の）暗証番号を入力してください。解除、または設定の変更は「セッティング」の「暗証番号ロック」を確認してください。	25. 53~54
オートセットアップが正しく作動しない	● 設定が「オフ」になっていませんか。「セッティング」を確認してください。	46
プロジェクタを傾けたのに、キーストーンがはたらかない	● リモコンの［AUTO SET］または操作パネルの［AUTO SET UP］ボタンを押してみてください。「オートキーストーン」の設定が「手動」になっていませんか。「セッティング」を確認してください。	46

コンピュータシステムモード一覧

プロジェクタにはあらかじめ以下のシステムモードが用意されています。(「カスタムモード 1～5 」は含みません。)
接続されたコンピュータの信号を判別して、プロジェクタが以下のシステムモードを自動で選択します。

システムモード	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	システムモード	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)
VGA 1	640 x 480	31.47	59.88	XGA 4	1024 x 768	56.476	70.07
VGA 2	720 x 400	31.47	70.09	XGA 5	1024 x 768	60.31	74.92
VGA 3	640 x 400	31.47	70.09	XGA 6	1024 x 768	48.50	60.02
VGA 4	640 x 480	37.86	74.38	XGA 7	1024 x 768	44.00	54.58
VGA 5	640 x 480	37.86	72.81	XGA 8	1024 x 768	63.48	79.35
VGA 6	640 x 480	37.50	75.00	XGA 9	1024 x 768	36.00	87.17（インターレース）
VGA 7	640 x 480	43.269	85.00	XGA 10	1024 x 768	62.04	77.07
MAC LC13	640 x 480	34.97	66.60	XGA 11	1024 x 768	61.00	75.70
MAC 13	640 x 480	35.00	66.67	XGA 12	1024 x 768	35.522	86.96（インターレース）
575i	———	15.625	50.00（インターレース）	XGA 13	1024 x 768	46.90	58.20
480i	———	15.734	60.00（インターレース）	XGA 14	1024 x 768	47.00	58.30
SVGA 1	800 x 600	35.156	56.25	XGA 15	1024 x 768	58.03	72.00
SVGA 2	800 x 600	37.88	60.32	MAC 19	1024 x 768	60.24	75.08
SVGA 3	800 x 600	46.875	75.00	MAC 21	1152 x 870	68.68	75.06
SVGA 4	800 x 600	53.674	85.06	SXGA 1	1152 x 864	64.20	70.40
SVGA 5	800 x 600	48.08	72.19	SXGA 11	1152 x 900	61.20	65.20
SVGA 6	800 x 600	37.90	61.03	SXGA 13	1280 x 1024	50.00	86.00（インターレース）
SVGA 7	800 x 600	34.50	55.38	SXGA 14	1280 x 1024	50.00	94.00（インターレース）
SVGA 8	800 x 600	38.00	60.51	SXGA 17	1152 x 900	61.85	66.00
SVGA 9	800 x 600	38.60	60.31	SXGA 18	1280 x 1024	46.43	86.70（インターレース）
SVGA 10	800 x 600	32.70	51.09	480p	———	31.47	59.88
SVGA 11	800 x 600	38.00	60.51	575p	———	31.25	50.00
MAC 16	832 x 624	49.72	74.55	720p	———	45.00	60.00
XGA 1	1024 x 768	48.36	60.00	1035i	———	33.75	60.00（インターレース）
XGA 2	1024 x 768	68.677	84.997	1080i	———	33.75	60.00（インターレース）
XGA 3	1024 x 768	60.023	75.03	1080i	———		50.00（インターレース）

コンピュータの信号がデジタルの場合

DVI 入力端子からデジタル信号を入力する場合、以下のシステムモードに対応しています。

システムモード	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	システムモード	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)
D-VGA	640 x 480	31.47	59.94	D-SXGA 3	1280 x 1024	31.65	29.80
D-480p	———	31.47	59.94	D-720p	———	45.00	60.00
D-575p	———	31.25	50.00	D-1035i	———	33.75	60.00（インターレース）
D-SVGA	800 x 600	37.879	60.32	D-1080i	———	33.75	60.00（インターレース）
D-XGA	1024 x 768	43.363	60.00	D-1080i	———	28.125	50.00（インターレース）
D-SXGA 2	1280 x 1024	60.276	58.069				

※ 仕様は改善のため予告なしに変更する場合があります。
※ SXGA、XGA、Mac16、Mac19、Mac21、Mac、720p、1035i、1080iの信号を投影するときは、信号をデジタル圧縮して映しますので、線や文字がオリジナルの画像と多少異なる場合があります。
※ ドットクロックが 100MHz 以上のコンピュータの信号には対応しておりません。
※ ご使用のコンピュータによっては、D-SXGA 1および D-SXGA 2 、D-SXGA 3の画像は正しく映らない場合があります。

メニュー内容一覧

コンピュータ / ビデオ　インプット

コンピュータ入力

＊表示される内容は入力された信号によって異なります。.

PC 調整
- 自動PC調整
- トラッキング ― 0 - 31
- 総ドット数
- 水平位置
- 垂直位置
- コンピュータ情報
- クランプ
- 画面領域
  - 640 x 480
  - 720 x 400
  - 800 x 600
  - 1024 x 768
  - 1152 x 864
  - 1280 x 1024
  - 1400 x 1050
  - 戻る
- 画面領域 H
- 画面領域 V
- フルスクリーン ― オン / オフ
- リセット ― はい / いいえ
- データ消去
  - モード 1
  - モード 2
  - モード 3
  - モード 4
  - モード 5
  - 戻る
- メモリー
  - モード 1
  - モード 2
  - モード 3
  - モード 4
  - モード 5
  - 戻る
- 戻る

イメージ調整
- コントラスト ― 0 - 63
- 明るさ ― 0 - 63
- 色温度 ― 超低/低/中/高/調整中
- 赤 ― 0 - 63
- 緑 ― 0 - 63
- 青 ― 0 - 63
- 画質 ― 0 - 15
- ガンマ補正 ― 0 - 15
- リセット ― はい / いいえ
- メモリー
  - イメージ 1
  - イメージ 2
  - イメージ 3
  - イメージ 4
  - 戻る
- 戻る

スクリーン
- ノーマル
- リアル
- ワイド
- デジタルズーム +
- デジタルズーム –

ビデオ入力
Auto
システム (2)
Auto
1080i
1035i
720p
575p
480p
575i
480i
Auto
システム (3)
Auto
PAL
SECAM
NTSC
NTSC 4.43
PAL-M
PAL-N
イメージ
ダイナミック
標準
シネマ
黒（緑）板
イメージ 1
イメージ 2
イメージ 3
イメージ 4
イメージ調整
コントラスト
0 - 63
明るさ
0 - 63
色の濃さ
0 - 63
色合い
0 - 63
色温度
超低/低/中/高/調整中
赤
0 - 63
緑
0 - 63
青
0 - 63
画質
0 - 15
ガンマ補正
0 - 15
プログレッシブ
オフ/ L1 / L2
フィルム
オン / オフ
リセット
はい / いいえ
メモリー
イメージ 1
イメージ 2
イメージ 3
イメージ 4
戻る
戻る
スクリーン
ノーマル
ワイド
セッティング
セッティング
言語
英語
ドイツ語
フランス語
イタリア語
スペイン語
ポルトガル語
オランダ語
スウェーデン語
ロシア語
中国語
韓国語
日本語
戻る
オートセットアップ
自動PC調整
オートキーストーン
戻る
キーストーン
メモリー/リセット
ブルーバック
オン / オフ
オンスクリーン表示
オン / オフ
ロゴ暗証番号ロック
オン / オフ
ロゴ暗証番号変更
戻る
ロゴ
オフ / 初期設定 / ユーザー
キャプチャー
はい / いいえ
天吊り
オン / オフ
リア投映
オン / オフ
端子
コンピュータ2 / モニター出力
スタンバイ モード
エコ / ノーマル
パワーマネージメント
オフ / 待機 / シャットダウン
1～30（タイマー：分）
戻る
オンスタート
オン / オフ
ランプモード
ノーマル / オート / エコ
ポインタ
スポットライト / ポインタ
戻る
リモコンコード
コード 1 ～8
戻る
USB
マウス / プロジェクタ
キーロック
プロジェクタ / リモコン / オフ
戻る
暗証番号ロック
オフ / オン1 / オン2
暗証番号変更
戻る
ファン
L1 / L2
ランプカウンターリセット
はい / いいえ
初期設定
はい / いいえ
戻る
サウンド
サウンド
音量
0 - 63
消音
オン / オフ
戻る

仕　様

プロジェクタ本体

項目	仕様
型　　名	LC-SB21D
種　　類	液晶プロジェクタ
表示方式	液晶パネル 3枚　3原色光シャッター方式
液晶パネル	サイズ：0.8型 x 3 アスペクト比 4：3 駆動方式：ポリシリコンTFTアクティブマトリクス方式 画素配列：ストライプ 画素数：480,000画素 (800× 600) ×3枚 総画素数 1,440,000 画素
投影レンズ	1.5倍ズームレンズ　F= 1.7 ～ 2.5　f= 20 ～ 30 mm
光　　源	200W UHPランプ
画面サイズ（投影距離）	最小 40 ～ 最大 300 型（1.0m～7.7m）
ズーム/フォーカス調整	手動
入出力	
コンピュータ	DVI入力 (1系統)：DVI-I コネクター（29ピン） デジタル：TMDS (Transition Minimized Differential Signaling) アナログRGB入出力 (入力1系統・出力1系統)：ミニD-sub 15ピン アナログRGB信号：0.7Vp-p、正極性、インピーダンス75Ω 水平・垂直同期：TTLレベル、負または正極性 (G信号中のコンポジット同期：0.3Vp-p、負極性、インピーダンス75Ω)
ビ デ オ	ビデオ入力 (1系統) 映像：ピンジャック、1Vp-p、同期負、インピーダンス75Ω S映像：セパレートYC信号、ミニDIN 4ピン Y；1Vp-p、同期負、インピーダンス75Ω C；0.286Vp-p (バースト信号)、インピーダンス75Ω コンポーネント：セパレートY Cb/Pb Cr/Pr信号、ミニD-sub 15ピン Y；1Vp-p、同期負、インピーダンス75Ω Cb/Pb；0.7Vp-p、インピーダンス75Ω Cr/Pr；0.7Vp-p、インピーダンス75Ω
音　　声	音声入力 (1系統)：ミニジャック (ステレオ)、400mVrms、インピーダンス47KΩ以上 音声入力：ピンジャック、400mVrms、インピーダンス47KΩ以上 (左モノ：右) 音声モニター出力（コンピュータ / ビデオ兼用）：ミニジャック（ステレオ）、可変出力、 インピーダンス1KΩ以下
制御入出力、他	サービスポート：ミニDIN 8ピン USB端子：USBコネクター、シリーズ B、シングルポート
走査周波数	水平 15K～80KHz、垂直 50～100Hz
カラーシステム	6システム (NTSC/PAL/SECAM/NTSC4.43/PAL-M/PAL-N)
音声出力	モノラル　1W (JEITA)
スピーカ	2.8 cm　円形 1個
電　　源	AC100V　50/60Hz
消費電力	260W（ノーマルモード） 223W（エコモード） 11W（待機中消費電力）
本体寸法	幅 298×高さ 71×奥行 218 mm（突起物含まず）
質　　量	2.8 Kg

※ 高調波電流規格　JIS C 61000-3-2 適合品

※ HDCPとは、High-bandwidth Digital Contents Protectionの略称で、DVIを経由して送られるデジタル映像の不正コピーを防止することを目的とした著作権保護用システムのことです。HDCPの規格は、Digital Content Protection, LLC という団体によって、策定・管理されています。本機の DVI-I入力端子は、HDCP技術を用いてコピープロテクトされたデジタル映像を再生投影することができます。HDCPの規格変更等が行われた場合、これらHDCP技術でコピープロテクトされたデジタル映像のDVI-I端子での再生はできなくなる場合があります。

※ 液晶パネルの有効画素数は 99.99 % 以上です。投影中 0.01 % 以下の点灯したままの点や、消灯したままの点が見られる場合があります。これは液晶パネルの特性で生じるもので故障ではありません。

リモコン

電源	DC3.0V　単3形アルカリ乾電池 2本使用
到達距離	約5m (受信部正面)
本体寸法	幅50×高さ27×奥行181mm
質量	154g (電池を含む)
レーザポインタレーザ出力 (IEC60825-1, Am.1 1997)	クラス2 レーザ製品 最大出力：1 mW 波　　長：650±20 nm

付属品

- ■ リモコン ････････････････････････････････････ 1個
- ■ リモコン用 アルカリ乾電池････････････････････ 2本
- ■ 電源コード ･･････････････････････････････････ 1本
- ■ コンピュータ接続ケーブル（DVI/D-sub用）･･･ 1本
- ■ USB ケーブル ････････････････････････････････ 1本
- ■ 取扱説明書
- ■ 保証書
- ■ ユーザー登録カード（はがき）
- ■ キャリーバッグ ･･････････････････････････････ 1枚
- ■ レンズキャップ ･･････････････････････････････ 1個
- ■ レンズキャップ用ひも ････････････････････････ 1本
- ■ レンズキャップ用ネジ ････････････････････････ 1個
- ■ PIN code lock シール ････････････････････････ 1枚

別売品

- ■ **DVI デジタルケーブル ･･･････････････････ 品番：KA-DV20**
- ■ **コンポーネント / D-sub ケーブル ･･･････ 品番：POA-CA-COMPVGA**
- ■ **Multi Card Director ･････････････････････ 品番：MCD-100**
- ■ **メモリー カード ･････････････････････････ 品番：CA-10**
- ■ **有線 LAN カード ･････････････････････････ 品番：CA-20**
- ■ **無線 LAN カード ･････････････････････････ 品番：CA-30**

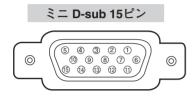
マルチカードイディレクターをご使用のとき、以下のモデルコードを PJ コントローラーの中でセットください。
詳しくは、マルチカードディレクターの取扱説明書をご覧ください。
モデル コード ： 08-4-1

※このプロジェクタは日本国内用に設計されております。電源電圧が異なる外国ではお使いいただけません。
This LCD Projector is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
※仕様および外観は改善のため予告なく変更する場合があります。
※説明書に記載のメーカー名および商品名は、各社の登録商標です。

端子の仕様

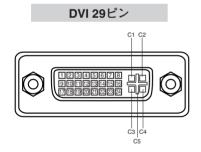
COMPUTER IN 2 / COMPONENT IN / MONITOR OUT（コンピュータ入力 / コンポーネント入力 / モニター出力端子）

コンピュータ入力、モニター出力端子として動作します。モニター出力にすると、[COMPUTER IN 1/DVI-I］端子に入力されたコンピュータ（アナログ）信号を出力します。接続には、D-sub用コンピュータ接続ケーブル をご使用ください。また、ビデオ機器からのコンポーネント信号を入力します。接続には、別売のコンポーネント/D-sub用接続ケーブル をご使用ください。

ミニ D-sub 15ピン

1	R (R/Cr) 入出力	9	未接続
2	G (G/Y) 入出力	10	接地（垂直同期）
3	B (B/Cb) 入出力	11	接地 / 未接続
4	未接続	12	未接続
5	接地（水平同期）	13	水平同期 入出力（ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄ：水平垂直同期）
6	接地 (R)	14	垂直同期 入出力
7	接地 (G)	15	未接続
8	接地 (B)		

COMPUTER IN 1 / DVI-I（コンピュータ DVI-I 入力端子）

DVI規格対応の端子を持つコンピュータからの信号（デジタル / アナログ）を接続するDVI-I端子です。接続には、別売のDVI-I用コンピュータ接続ケーブルを使用します。D-sub出力端子（アナログ）のコンピュータへの接続には、付属のDVI/D-sub用コンピュータ接続ケーブルを使って接続します。

DVI 29ピン

アナログ コンタクト部

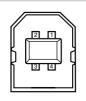
C1	アナログ R ビデオ入力
C2	アナログ G ビデオ入力
C3	アナログ B ビデオ入力
C4	アナログ水平同期
C5	アナログ RGB 接地

デジタル コンタクト部

1	T.M.D.S. データ 2–	9	T.M.D.S. データ 1–	17	T.M.D.S. データ 0–
2	T.M.D.S. データ 2+	10	T.M.D.S. データ 1+	18	T.M.D.S. データ 0+
3	T.M.D.S. データ 2 / 4 シールド	11	T.M.D.S. データ 1 / 3 シールド	19	T.M.D.S. データ 0 / 5 シールド
4	未接続	12	未接続	20	未接続
5	未接続	13	未接続	21	未接続
6	DDC クロック	14	+5V パワー	22	T.M.D.S. クロック シールド
7	DDC データ	15	接地 (+5V)	23	T.M.D.S. クロック+
8	アナログ垂直同期	16	ホットプラグ検知	24	T.M.D.S. クロック–

USB（ユニバーサルシリアルバス端子）

USB規格対応の端子を持つコンピュータ機器との接続に使用する端子です。

USB コネクター（シリーズ B）

1	VCC
2	– DATA
3	+ DATA
4	接地

保証とアフターサービス

修理を依頼されるときのご注意

修理を依頼されるときはお買上の販売店に次のことをお知らせのうえ、修理をご依頼ください。

・ 品名、型名
・ 故障の症状
・ お名前、おところ

保証書について

保証期間はお買上日より1年間です。保証書の記載内容により修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。

補修用性能部品について

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。

※補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。